

## 遺伝という財産

22期生

小幡 浩次

東住吉高等学校50周年おめでとうございます。私が卒業してから25年以上も過ぎました。しかし、いくつかの出来事は今でも本当に昨日のことように鮮明に覚えています。私は現在某府立高校で数学の教員をしています。生徒に毎日当然数学を教えています。黒板に書くとき、ノートを点検するとき、採点をするとき、問題を生徒にやらせるとき、生徒をしかるとき、さらには教室に入るときなども母校の先生方のしぐさをふと思い出します。もちろん思い出すだけではなくそうなることが多々あります。恐ろしいものです。大学生のときに教育実習で母校にお世話になったときも、自分ではまったく意識していなかったのに、当時の生徒から先生の黒板の字はF村先生の字とまったく同じやなーと言われたことがあります。たぶん今の私の勤務している高校の生徒たちが、その時代の先生方の授業を受けたとしたら、同じようなせりふをつぶやくことでしょう。

高校時代に教えられたことは強烈で、その後どうしてもまた注意を受けるのではないだろうかと心配になって、体が言うことをきかない時があります。例えば国語のT中先生から教えていただいた文章の書き方。私は今でも接続詞の「そして」と助詞の「が」を使うことができません。この記念誌を読まれた22期生のなかにもきっとおられることでしょう。たった1回の使用で何百字もの感想文（井伏鱒二の黒い雨）を一からやり直しにさせられた経験。怖いものです。

真冬の授業中に普通にポケットに手を入れて数学の問題を解いていたら、「なまいきや」といきなり定規（それは本当の定規ではなくただの棒切れ）でズボンの上からピシッと打たれた経験。今の私も授業中に生徒を見て気にしてしまうけれども、これはなかなかできません。



英語のSi山先生の「理屈なしにおぼえとこ」というせりふも強烈でした。それまでなんでもかんでも理路整然と教えておられた方（ただし相当の河内ことば）が、ある場面では180度方向転換して、理屈などない、ただひたすらこの文は口に出せばいいのだとおっしゃったのだ。こんな教え方も今の私の財産になっています。

体育祭での団長会議で、とことん正義とは何かを追求させられたS木先生とのやりとり。しんどいのはあたりまえやと走り続けさせられたサッカー部顧問のT木先生。浪人中も大学生活はこんなふうなすごしかたもあるでと語ってくれたM野先生等々。まるで昨日のことのようです。

20年ほど私自身も教壇に立ちました。しかし、どれだけ今の生徒に深い指導ができたでしょうか。この回想記を機に自分自身反省をしてみたいと思うと同時に、22期生にかかわっていただいた多くの先生方に感謝したいと思います。本当に有難うございました。また、母校の今後の発展をお祈りさせていただきます。

# 無念がいしずえ

25期生

森本 義夫

創立50周年おめでとうございます。時の流れは速いもので、東住吉高校が創立されてから25年、私が同校へ入学してから25年、半世紀という月日が過ぎていき、歴史の重さを痛感しています。私は25期生、1年8組村上学級、2年7組松浦学級、3年4組根本学級、陸上部に所属していた森本義夫です。高校卒業後、天理大学体育学部に進学し、(ここまでは順調でしたが?)卒業してから就職するまで、2年間「ブー太郎」生活を経験し、現在は大阪市消防局の消防士として16年間がんばっているつもりです。

さて、東住吉高校時代の回想記ということなのですが…

入学当初の私は、国公立大学を目指し勉学に没頭しようと決意を固めていました。しかし、高校3年間は、当時の先生方がよく言われていた東住吉温泉に溺れそうになるぐらいどっぷりと漬かってしまい、のんきに青春の3年間を過ごしてしまいました。当然のごとく通知表は、まるでもみじの葉が紅葉しているように赤点が多く、先生方に随分とご心配をかけ、なんとか卒業にこぎつけたという記憶が残っています。

高校時代の一番の思い出は、クラブ活動でした。陸上競技をしていた私は、忘れられない思い出が一つあります。陸上競技は個人的な種目だからこそ、4人が一丸となって協力できるリレーは、私にとって強い思い出があり、4×100mリレーで近畿大会をめざしていました。しかし、現実の世界は、私たちの苦勞と努力は報われませんでした。残念ながら大阪府予選の準決勝で0.3秒足りず、無念の敗退。みんなで喜びを分かち合うことができませんでした。悔しい思いをしましたが、同じ目標に向かって皆で時を過ごしたことは、今の私のいしずえとな

っています。

クラブ活動の他に学校の諸行事も充実していました。私の周りの友人たちも学校の諸行事は、目の色が変わっていました。異常に盛り上がった体育祭、文化祭、霧ヶ峰のキャンプなど、一つの目標に向かって一致団結し、一生懸命がんばっていました。特に体育祭での団結力、集中力、精神力は、素晴らしいものがありました。この集団パワー(組織力)は、他の高校に負けない、大阪でも有数の高校であったと自負しています。



他にも思い出せばいろいろなことがありますが、私はこの東住吉高校の自由な校風、自主独立の精神の中で、すばらしい先生、先輩、後輩、仲間たちに恵まれ、貴重な経験ができ、たいへん充実した日々を過ごすことができました。この高校3年間の経験を誇りに思います。そして、これからの東住吉高校が、益々発展することを願って高校3年間の回想を終わらせていただきます。

# 素晴らしき高校時代の思い出

26期生

山口 博功



大阪府立東住吉高等学校、創立50周年誠にありがとうございます。

卒業して21年が過ぎました。現在は、大阪市内で中学校の教師をして18年目をむかえています。今から思えば、高校時代は自分の心身の成長の土台になった頃でありました。ここではその土台になった、高校生活の話を中心に回想していきます。

色々思いつくままに書きます。確か始業時刻は8時30分で、朝のホームルームはなくすぐに授業が始まり、私はいつもぎりぎりに自転車で登校していました。幸運なことに授業の始めは、出席番号と名前を読まれるので1番から読むと私の番まではかなり時間があり、後ろの入口から忍者のように入って知らぬ顔をして座っていたことを思い出します。次に、食堂の“テンソ”（天ぷらそば）が頭に思い浮かびます。和食のそばなのに、中華麺が入っているところがすごくおしゃれで印象に残っています。最後に、2年生の修学旅行で信州の高原に行ったときのこと。テントでの宿泊で、そこはやはり高校生、女子のテントに行きたくなるもので、男女で普通にトラ

ンプをしていたら、先生に見つかって、友だちと1時間位、星座を眺めながら正座をしていたことを思い出します。最終日の諏訪湖のホテルでは、逆に先生の見回りがなく男女を問わず本当に朝まで語り尽くしました。片思いでふられたり、恋の相談にのってもらつつもりがその子と仲良くなったり、高校時代の思い出というのは、語ればいっぱい沸いてきて、一番調子にのれた頃だと思います。

ここで、私が教師になりたいと思ったきっかけをお話します。それは2人の先生に大きく影響されています。最初は部活の顧問である田口先生です。先生はすごく“ヤンチャ”で頼りがいのある人でした。2年の時に副主将となり、私自身何も考えずに調子によって、結果的に後輩いじめをしてしまったことがありました。先生は私の顔面をグーで一発殴り、そのことのいったい何が間違いであるのかを、私の目を見て真剣に説いてくれた時の“人の情熱”を感じたからです。次に、3年担任の天岸先生です。学級代表だったので、よく先生の教官室に行く機会がありました。私は母親を亡くしていたので色々親身になって相談にのっていただいた時の“人の優しさ”を感じたからです。

現在、中学校でラグビー部の顧問をし、多数の教え子に囲まれて幸せな教員生活を送っております。また、問題行動や不登校などのサポートをする生徒指導主事という立場で仕事をさせていただいています。人生の折り返し点にさしかかった今、あらゆることの動機付けになった高校時代の原点を、いつまでも大切にこれからも頑張っていきます。

# 思い出はほんとにいっぱい

28期生

久下 英孝

早いもので28期生の私ですら、卒業して20年が過ぎました。大学進学、就職と様々なことが卒業後にありましたが、東住吉でのことは今でもたくさんの思い出として残っています。そして、人生のいろいろな場面で、その3年間で大きく影響していたことは言うまでもないことかもしれません。また、母校50周年という記念の年に、東住吉で教壇に立っているというのもその延長線なのでしょうか。運命的なものを感じずにいられません。

さて、この記念誌の回想記を書かせていただくにあたって高校3年間の記憶をたどっていきますと、本当にいろいろあったんだと改めて感じました。この紙面に書ききるのはスペースが足りませんので、その中のいくつかを書いていこうと思います。題して『ヒガスマの記憶・カウントダウン!』。第10位から。

## 第10位 ~学校生活のひとコマ~

食堂のメシ・コロ・チュウカ(ごはん・コロケ・中華そば)。オーダーはこれで通っていた。昼休みの野球と河川敷のテニスもいい思い出です。

## 第9位 ~卒業式~

歌ったのは、ユーミンの『卒業写真』、泣いたなあ。教室で担任の松浦先生に全員でクラッカー、先生びっくりしてた。後輩から花束、きれいだった。

## 第8位 ~あの空中落下、気持ちよかった~

3年生の棒高跳び。始めは変な体勢で落ちてあざがいっぱいだったけれど、ある日突然に…。2m60をクリアして落ちていくあの時の高さは今でも忘れません。

## 第7位 ~文化祭~

体育祭に比べると地味な文化祭だったけど、いろいろ苦労もしました。1年生の時、片山先生の教室をお借りしたのですが、返却の時、掲示物の位置が違ってもきつく叱られたことを覚えています。2年生では模擬店『喫茶100W(ワット)』でクラスが協力して大成功でした。今から考えると、もうあの頃に100均思考はあったんですね。コーヒー、ケーキなどをどれも100円で販売しました。仕入れは苦労しました。3年生はコーラス。『昴』と『冬が来る前に』でした。パート分けや練習でみんなで頑張り、優勝しました。

## 第6位 ~調理師から教職へ(進路変更)~



高校進学時から将来については漠然としか考えていなかったというか、どちらに転んでも今は勉強という感じでした。レストランや食堂をしたいと思うようになり、調理師学校への進学を考えていました。しかし、経営や経理のできる力をとということで、大学進学を勧められる流れになっていきました。が、3年生の1月になってなぜか教師志望に変わりました。クラスメートもびっくりしていましたし、今も知らない人がいるかもしれません。

## 第5位 ~第2の専門種目の原点、修学旅行~

正直なところ修学旅行から帰ってくるまでは、「なんでスキーなん？」でした。でも、今は専門種目の体操と並んで深くスキーに関わっています。あの時のインストラクターは河野さんという方でしたが、楽しい3日間でした。本格的にスキーを始めたのはずいぶんたってからですが、原点であることは間違いありません。あと、武田先生と田口先生が斜面をダーッと滑って降りてこられていた姿も思い出します。

## 第4位 ~祝・入学~

私たちは丙午生まれの昭和57年度入学生で、生徒数も少なく、合せて出願者が定員を少し超えたくらいの学年でしたので倍率は低かったものの、自分の受検番号を見つけた時はうれしかったです。それといろいろな部の先輩方がピラ配りやパフォーマンスを披露しているのを見てびっくりしたのを覚えています。体操部に入部したのもその印象が強かったんだと思います。信号待ちをしている横で倒立していましたから。そしてもうひとつ、入学式で代表宣誓したこと。合格者集会で「受検番号135番。」と自分の受検番号が突然呼ばれ、何のことかわからずにいると、今度は怒鳴られるように「135番おらんのか。」と。反射的に返事しました。あの声は江原先生だったのではないのでしょうか。

## 第3位 ~東住吉といえば体育祭~

家が近所ということもあり、小さい頃から塀の外でなんとなく行事を見かけることはありました。屋上で太鼓をたたいているような映像も記憶の片隅に残っています。しかし、自分がその中に入るとは思っていなかったのだ

漠然と眺めているような感じでした。入学後、体育祭にはあまり興味がなかった私だったので、2学期がとうとうやってきたという感じでした。当時4団だった団構成が6団になった年で私は青团の応援でした。始めは大きな声を張り上げる苦痛の日々でしたが、日を追うごとにまとまっていく自分たちを誇りに思えるようになっていったのは、熱心に指導してくださっていた頼もしい先輩方の力だったんだと感じていました。そして、優勝した団（確か黄色）の総団が「みんなが優勝なんや！」と言いながら賞状を破った時に全団が歓声を上げ、その光景に感動し背筋が震えたのを今でも覚えています。プラスバンドの『マイウェイ』、マスコットを燃やすのにハンマーをいれる団長の姿も涙でした。2年生では3年生の先輩方とも強くつながることができ、いろいろな面で体育祭に関わることができました。小泉今日子の『真っ赤な女の子』が青团のテーマソングでした。3年生の体育祭は大変でした。東住吉の長い歴史の中で、体育祭が中止になってしまったのは後にも先にもその1回ではないのでしょうか？生徒会執行部が成立しなかったからです。いろいろ先生方とも話し合いましたが認めてもらえず、仕方なく学校外で何か形を残そうと総団中心に何度も話し合い、1・2年生にも参加希望を募り、プログラム作りや応援、仮装、おみこし作りと企画運営していきました。当然学校ではできずに、校外で活動していました。そして予定していた本番前日、長居公園の広場に泊り込んで場所とりを考えていたところ、校長先生の提案で、体育祭という名前を使わないということを条件に、東住吉のグラウンドの使用を許可してくださいました。当日は朝早くから3学年の有志が集まり、盛大に会が行なわれました。とても天気にも恵まれ、さわやかな1日でした。ありがとうございました。

## 第2位 ～授業の思い出～

3年間いろいろな先生の授業を受けました。ここに思い出してみたいと思います。

- ・ 福村先生の数学。毎週配られるプリントの量と、「君たちが消しゴムのかすを残さずに問題を解けるわけがない。人のノートを写したのは明白だ。」のコメント。
- ・ 生物のスケッチ。えんぴつでひたすらに点を書きつづけました。出来上がりは我ながら満足でした。
- ・ 柴山先生の英語。「the」の発音を今も覚えています。
- ・ ひたすら覚ええました。百人一首。
- ・ 赤堀先生の書道。「一枚でも半紙とはこれ如何に。」いっぱい書きました。離任式でも、「今度転勤する学校は親切（新設）な学校ですので…」と笑わせてくれました。

- ・ 近藤先生の書道。なかなか『天』が頂けませんでした。
  - ・ 授業態度が悪くてクラス全員、1時間中、トラックを走っていた体育の授業もありました。
  - ・ 『ばばともどどもをにがてでしてつつながら』古典の江原先生。
  - ・ 「梅雨はいいな。何もしなくてもしっとり汗がかける。」と、数学の森口先生。
- などです。まだまだたくさんあるのですが、これくらいにします。

## 第1位 ～体操部とドクターストップ～

やはり、体操との出会いが私の中ではその後の人生に大きな影響を与えました。中学校で囲碁部と放送部に所属していた私が、体育系の部活動に参加すること自体が新しい出来事で周りもびっくりしていました。1年生の始め、体育館に見学に行き、なんとなく次の日から活動に参加していたという感じでした。3年生の先輩は大会前で2年生の先輩がいろいろと教えてくださいました。毎日のようにできるようになることが増えていき、6時間目の途中からわくわくというか何かグッとくる日々でした。しかし、その後故障の日が続くことになりました。腰を痛め走れなくなり、靭帯が切れ、捻挫し、半月板損傷、そして肩脱臼。病院から体操を辞めるようにアドバイスされました。先輩方に相談し、体操部を辞めることにしました。その後しばらくして顧問の浜村先生に「もったいない。」と言われましたが、仕方なく部から遠ざかることになりました。1年生の秋のことでした。その後2年余りの時が流れました。その体操部にOBの方々や後輩たちの理解で3年生の終わりに復帰しました。実際には体育系への進学に関わって練習に参加するところから始まり、卒業後も体操に関わるようになったことからです。正直なところ高校生として参加した体操部は、途切れた上に短かったのでOB会に加入させていただくことは心苦しいところもありますが、皆さんの期待に応えられるようがんばっていきたくと思っています。

このように自分の高校生活を思い返してみると、本当にいろいろあった楽しく充実した日々でした。これからの東住吉もたくさんの良き思い出を、後輩たちに残していく学校であることを心から願っています。そして今、母校に勤務する私はその空間を演出する自覚と誇りを持ち、その責任の重さを感じながら後輩たちとともに楽しく過ごしていこうと思っています。母校50周年、改めて東住吉のますますの発展とOBの方々、在校生の皆さんのご活躍をお祈りしてこの記を終わりたいと思います。

## 恩師との出会い

33期生

山川 育子 (旧姓 櫻井)

私が「進学校」と言われる東住吉高校に入学した日から17年経ちましたが、振り返って見ると、「勉強」というイメージがありません。私自身高校に合格したという安心感を持ったまま、温泉にでも浸っている様に大半を過ごしたからかも知れません。言うまでもなく3年生になり焦った記憶があります。というのも殆どの先生が私の想像している「進学校の先生」ではなく、アットホームな感じだったからではないかと思えます。勉強も丁寧に教えて下さいましたし、大学受験の際もものすごく熱心に相談に乗って下さいました。それに私が甘えていた様な気がします。しかし、その温かい御指導のお陰で私も希望の進路に進むことが出来大変感謝しています。あの時、先生方の後押しがなければ現在の私はなかったでしょう。

又、クラブ活動でもいろいろお世話になりました。私は卓球部で部長という役割を頂き、最初は人をまとめていくという難しさに何度かくじけそうになりましたが、顧問の先生方がフォローして下さい途中で投げ出さずに済みました。先生方と練習していて負けそうになると、とても悔しい思いをしたのも今では懐かしい思い出です。決して強いチームではありませんでしたが3年間楽しくやっていたように思います。

高校時代というときに「思春期」「青春」という言葉から連想できるように楽しい時期です。が、反面これからの社会に対応していく自己育成の時でもあると思います。その様な時に数え切れない程のめぐり会いがある中で、私は東住吉高校と先生方にめぐり会うことができました。この出会いがなければ本当に人生は変わっていたと思います。

近年では高校生の犯罪が増加していて、高校の教育についてもいろいろ取り上げられています。そんな中、息子を持つ私として子の将来を案ずることがありますが、東住吉高校のようなのびのびとした学校をさがし出し、又それを希望してくれればと思います。

高校に進学しないまま就職する人も増えていますが私自身、高校に進学したことは大変良かったと思っています。進学するかどうか迷っている人がいれば迷わず進学を薦めたいです。この根拠はやはり、本当に私がいい先生方にめぐり会えたことだと思います。これは自信を持って言えることです。

今さら何ですが、私が東住吉高校在学中の3年間お世話になった先生方、本当に有難うございました。この場をお借りし、改めてお礼にかえさせて頂きたいと思えます。と同時に、東住吉高校及び先生方の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



## 私の高校時代

35期生

白永 浩史



東住吉高校創立50周年おめでとうございます。私は今30歳で、卒業して12年になります。会社員の私は日々の生活に追われ、なかなか高校のことを思い出すことが出来ない状態です。35期生の皆さん、私と同じく30歳です

ね。残念ながらそろそろ落ち着かないといけない年齢になってしまいましたね。お元気でしょうか？

さて、500名ちかい35期生の代表として何故か私に原稿作成の依頼が回ってきたのですが、何を書こうかちょっと迷っています。書くことが多すぎて迷っているのではなく、私の高校時代は特に目立った生徒でもなく、普通に授業を受け、終われば部活であるテニスの練習をして、寄り道もせず家に帰る、という毎日を繰り返していただけでしたから。寄稿者に多い「生徒会会長」「キャプテン」でもなかったです。でもまあ、いいでしょう。

思い出してみると、30年の人生の中で特異な3年間であったことは間違いないように思います。まず、私が一番戸惑ったことは、私に比べて同級生の皆が妙に大人びた感じがしたこと。これはやはり私が美原町という郊外から登校していたからだと思います。特に大阪市内から登校している同級生には、そう感じるが多かったようです。だから自然と友人には同じく郊外から登校

していた人が多かったように思います。次に、戸惑ったのは細かく分かれた教科と、それに伴って先生も変わるということでした。特に英語と数学です。というのは、両教科は苦手だった上に、要領よく勉強できるタイプでもなかったので、同じ教科なのに複数になってしまうと、それだけで訳が分からなくなってしまったからです。でも得意だった社会が複数に分かれていた結果、深みのある授業が聞けてよかったと思いました。ということは、訳が分かるようになるまでがんばっていれば、複数に分かれていたことがプラスになっていたのでしょうか。私にはこのシステムはちょっと早かったように思いました。

このように、教室内では戸惑うことが多かったのですが、クラブ活動であるテニスに対しては情熱を燃やしていたと思います。教室内では少々内気な私でしたが、コートの中では大きな声を出してボールを追っていたことは、私の高校生活に大きな彩りを与えるものでした。テニスは大学進学後も続けていたので、中、高、大学合わせて10年はやっていたことになります。これは今の私を勇気づける一つにもなっています。

高校生活はたったの3年間ですが、今から思うとかけがえない貴重な3年間だったように思います。これからの人生はどうなるのだろう、という漠然とした不安を一番感じていた時期でもあったと思います。久しぶりに東住吉高校の伝統である「自主独立の精神」を思い出して、また明日からがんばろうかと思っています。最後にOB、OG、在校生の皆さんはもちろん、母校である東住吉高校の益々のご活躍を祈念して、私の思い出の記を終わりたいと思います。

# 東住吉高校という土壌

39 期生（芸能文化科 1 期生）

寺田 充典

創立50周年、誠におめでとうございます。おそらく、他にも多くの方がこの言葉で母校を寿いだことでしょう。

しかし、そもそも「おめでたい」というこの言葉はどういう意味なのでしょう？

「おめでたい」とは、「お目出度い」とも書いたりします。「め」というのは、目玉のことではありません。創立記念に目玉が出てきたら、かなり不気味です。「め」は草や木の芽のことです。

草や木の芽は春になって、一日一日と陽気が出るにしたがって萌え出るものです。この陽気というのは、物を育てる気で、天地にとっても人にとっても好ましいものです。つまり、春になって天地に陽気が満ちて、草も木も芽が出たいと思うこと。それが「おめでたい」ということです。

人生を花や草木に例えるならば、高校生といえば、ようやく芽が出始めたばかりの頃です。東住吉高校が、50年間に多くの高校生に多くの人生を芽吹かせてきことは、実に「お芽出たい」ことです。

前置きが少々長くなりました。私が芸能文化科の1期生として入学して以来、もう11年が過ぎました。全国で初めての学科ということで、1年生の頃の授業にも、また節目節目の行事にも常にマスコミ関係の人がいるという特殊な環境でした。入学時の緊張と不安が和らぐにつれて、そのような特殊な環境にも慣れていきました。漫才師を目指して入学したのですが、演劇部の仲間と出会いそれがきっかけで、在学中に小劇場演劇の世界に飛び込みました。3年生の後半には私が主宰する劇団「演劇集団よろずや」を旗揚げしました。そして現在も

演劇活動を続けています。

芸能文化科は、もともと実演家・表現者の育成を目的とした学科ではありません。芸能の良き理解者、鑑賞者を育てることが、大阪の文化を支えるために必要であり、そのための専門教育学科だと理解しています。

それはその通りなのですが、その芸能文化科の教育方針と、芸能文化科の先生方や当時の学科長の仲先生の薫陶を受けたお蔭で、「食えない、金がない、苦勞する」といわれる3Kの小劇場演劇界で脚本家・演出家・俳優・プロデューサーとなり、まさに万屋の活動で収入を得て、なんとか生活ができています。

舞台芸術協会の理事をやらせてもらったり、文化行政に携わったりしていますが、私が芸能文化科1期生であることは、今後もずっと私と一緒に生き続けます。東住吉高校で芽吹かせてもらった苗を、舞台芸術という土壌で根付かせ、枝葉を伸ばして、幹を太くしようと思っています。母校がこれからもたくさんの芽を育て続けられることを祈りつつ、筆を擱きたいと思います。



# 人生は選択の積み重ね

40期生 (芸能文化科2期生)

西田 弥須子

創立50周年おめでとうございます。東住吉高校ご関係各位の益々のご繁栄を祈念申し上げます。

私は芸能文化科の2期生で、当時はなかなかの怠け者っぷりを披露しておりました。興味のない授業はことごとく居眠りか内職をしていたように記憶しております。

そんな状態でしたので志望校合格の知らせを受けたのも卒業式が終わってからのことで、先生には大変ご心配をお掛けしました。なにせ推薦入試の合格発表の日に金剛山に耐寒登山をして雪で滑り落ちたのを「不吉…」と言っていたら本当に不合格だったと笑い話にしていたぐらいの不真面目さですから。

さて、不幸にもこんなどうしようもない怠け者の2・3年次の担任になってしまわれたのが桑原先生です。

先生は社家の方でしたので神道系の大学である私の志望校のことも受験生の私よりよほどよくご存知でした。推薦書を書いていただいた時も「西田は神宮皇学館志望やったな」とおっしゃるのを聞いて（神宮ってのはなんだろう？私は皇学館大学に進みたいんだけど？）とまず思案をし、先生が封筒に定規を使って下書きをした上に、つけペンとインクで丁寧に宛名書きをされるのを見て、受験を舐めきっていた私は（なんだかえらい事になったぞ。受験ってそんなに大層なものなのか？）と感じた覚えがあります。

私が何故そのような神道系の大学に進学しようと考えたのかといいますと、芸能の起源が祭事や神事にあると教えていただいたからです。つまりその授業で居眠りをしていたらその大学に進みたいとは思わなかったという事になります。そして私は今現在大阪府下のある神社に奉職しております。



若輩が語るのも面映いので、ある本にあった言葉を借りますと、人生は選択の積み重ねによってできるのだそうです。その話でいくと、高校生活は分岐点の密集地帯だと思います。学業だけの意味ではなく、何を学ぶかによってできる分岐点で、学ぶことによってより正しい選択ができると思います。

在学中の方にも学生生活のそここに多くの学ぶべき物事があると思います。私自身、当時もっと知りたいたいという心持があれば今の私は変わっていたかも知れませんが、もっと怠けていたなら今とは全く違う自分を現在としていたでしょう。

怠け癖の抜けない私が言えた事ではありませんが、学ぶことは社会人になっても必要な姿勢であると思います。

末筆となりましたが、当時学科長でいらした仲先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 「笑い」の学生時代

42期生（芸能文化科4期生）

下原 俊明



私が東住吉高校の芸能文化科を卒業して、早や7年になります。今は東京での生活を送っており、その月日と共に、身の回りの環境も、そして自分自身も大きく変化していきました。

しかし、その変わりゆく環境の中で、常に変わらず心置きなく過ごすことのできる集まりが、東住（ひがすみ）の友人達です。

芸能文化科はクラス替えというものがなく、そのうち男子が11人という少なさで、3年間の高校生活を共にしてきました。その分、絆も深まり、驚くことに今でもその男子の全員が集まって飲んだりすることがよくあります。

私たちがお互いの絆を深めることになった要因に、「笑い」ということが挙げられます。それぞれが、ボケになったりツッコミになって、笑い笑わせる。それはたとえ授業中であっても休み時間であっても、とにかくいつも「笑い」を求めています。

そして、その結晶が、文化祭で私たちのクラスが主催

した「溝部亭」という発表会になったわけです。それぞれがコンビを組んで漫才を、あるいはコントを、なかには隠し芸を披露する者もいました。つまり世間で言う寄席をやったのです。

この寄席に向けての各自の意気込みはとても熱いものがあり、文化祭発表当日の私たちの興奮と客席の熱気は、今でも忘れることはありません。またこの経験で得た、お客さんを笑わせるというあの何ともいえない快感も、実際に体験した者でないと解らないものがありました。

この「笑い」を追求する友人たちに、私は入学当初、大変戸惑い、少し大げさに言えば、カルチャーショックを受けたような状態になっていました。それは結局、「笑わせる快感」というものが、また「笑い」によるスキンシップというものが、それまでの自分の中にほとんど無かったからでした。そういう状況のなかで、1年生の頃は学校をやめようと思うことが何度もありました。ところがそれも、「笑い」の効き目のお陰で、徐々に薄れていき、最終的には友人達との「笑い」のスキンシップの魅力に取り付かれていました。入学当初の杞憂はどこかへ消滅してしまいました。

今でも皆が集まると、高校時代と何一つ変わらぬ「笑い」のスキンシップが生じ、懐かしさが復活します。そして心安らぐ時間を過ごせます。これも東住吉高校との出会い、友人たちとの出会いがあったからこそだと感謝しています。今後も東住吉高校から、私たちのような「深い絆」がたくさん生まれることを期待しております。

# 東住吉は今



# 校舎・施設



グラウンド



テニスコート



プール



下足棟



芸能棟



御堂筋



図書館



正門



石舞台



体育館



中庭



駐輪場



中央館



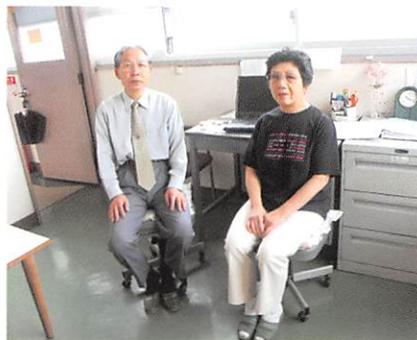
南館



東館



北館



同窓会室



緑友会館



校長室



事務室



職員室



保健室



図書室



視聴覚教室



購買部



食堂



進路指導室



進路資料室



会議室



体育館フロア



小競技場



柔道場



トレーニングルーム



芸文棟舞台



体育館舞台



芸文棟実習室

# 授業風景



教室での普通授業



理科実習



調理実習



音楽の授業



ALTによるオーラルの授業



LAN教室での情報の授業



体育の授業



美術の授業



書道の授業

## 校内点描



青空に映える校章



噴水



生徒の手によるオブジェ



スタンド運び



石舞台でのだんらん



食堂の方々



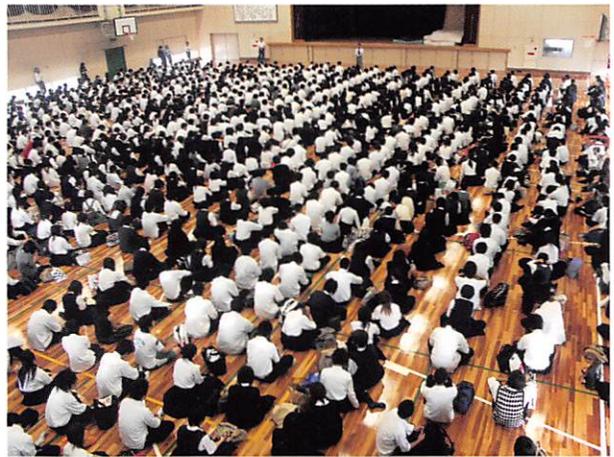
生徒作品の展示



絵画



石碑



全校集会



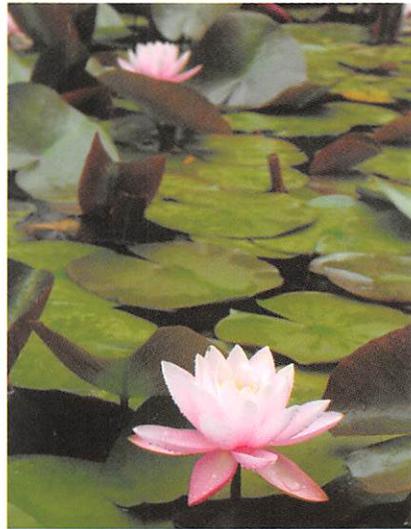
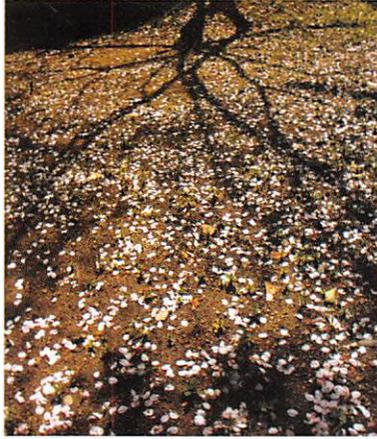
つつじ



祝体育祭はりがみ

# 校内四季

春



夏

秋



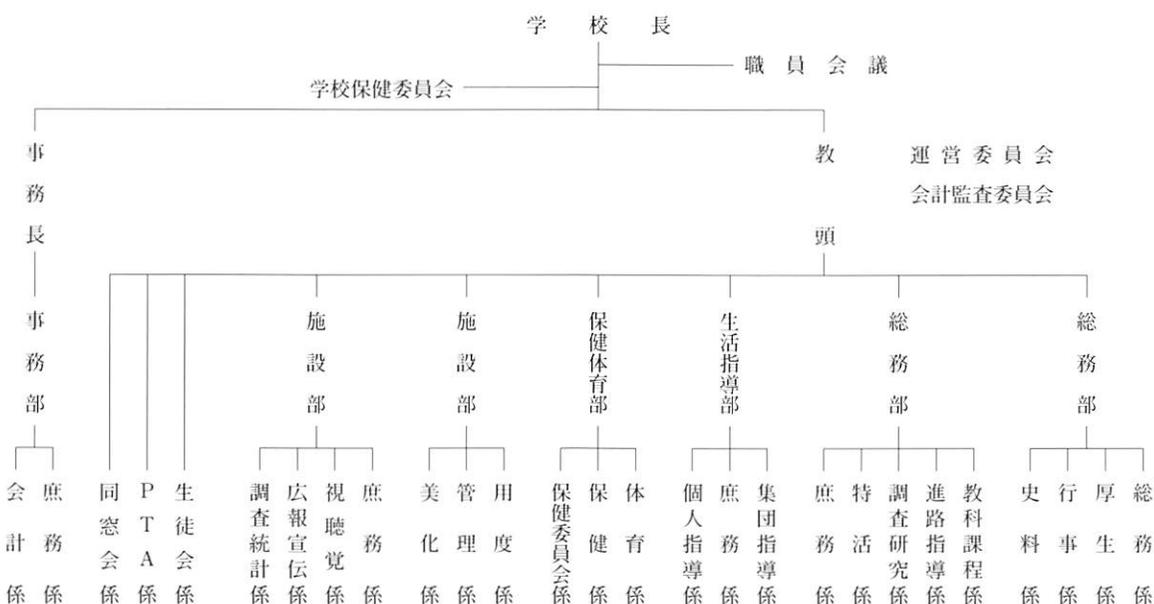
冬



## 昭和30年度 分掌組織



## 昭和36年度 分掌組織







るかどうか（例えば、団に複数名の総大将候補がいると、投票で1名に絞らねばならない）が決まるとあって悲喜こもごもの会議となる。団編成の後、4部門の班長ら3年生によって練習計画や設計図が練られ、体育祭2週間前の結団式以後全団員による活動が開始される。毎年この期間は、応援班とアトラク班が遅くまで練習しているという通報も入り、生徒会顧問にとってハラハラドキドキの2週間となるのである。

本校卒業生にとって体育祭、特に結団式以降の練習期間が最も思い出に残っているという話をよく聞く。彼らはこのわずか2週間という期間に情熱を注ぎ込むことで、濃密な人間関係をつくりあげ様々な経験を得るのだろう。東住吉高校は実に素晴らしい行事を造り育ててきたものだと思う。

## 文化祭

本校の特徴の1つはクラス演劇の多さであろう。特別に1・2年生に演劇を指定しているわけではないのだが、最近数年は半数以上のクラスが演劇を希望するようになっている。芸文棟の本格的な照明・音響機器が使用できるためクラス演劇としてはかなり高度な演出が可能であり、実際年々レベルが向上している。夏休み中から演技の練習や大道具作成に励むクラスある。文化祭前には生徒といっしょになって暗くなるまで準備に汗を流している担任の姿がある。行事は生徒同士だけでなく、教師と生徒の人間関係を深くするという効能も持っている。3年生はコーラスというのが本校の伝統となっている。高校生活最後の行事にかける意気込みはたいしたもの、おそらく大阪府下で最も高レベルなクラスコーラスであろうと自負している。

今後の課題としては、クラス数の減少を補うためにもまたより高レベルの出し物を提供するためにも有志参加を増やしていきたいと考えている。今年の有志による「CATS」は見応えのあるできに仕上がっていた。

## 部活動

毎日放課後、校内各所から生徒達の声が聞こえてくる本校は部活動の盛んな学校の1つである。しかし、文科系クラブには衰退の徴候も見られており、振興策を考えていく必要がある。最近10年間の部員数の推移の表を参照して頂きたい。

### 最近10年間の部員数の推移

	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15
陸上競技	60	65	49	54	54	50	53	58	66	71
男子バレー	40	41	36	23	23	19	14	16	14	14
女子バレー	25	28	31	16	16	27	35	34	24	24
男子ハンド	14	13	16	9	9	26	21	13	10	3
女子ハンド	21	22	32	34	34	18	18	13	0	0
男子バスケット	58	65	53	59	59	43	45	50	52	57
女子バスケット	44	42	33	34	34	34	24	28	31	39
男子テニス	34	34	16	6	6	14	6	19	28	25
女子テニス	40	40	33	48	48	22	24	46	42	30
柔道	14	17	22	12	12	15	15	16	14	14
剣道	8	15	13	14	14	16	14	27	22	13
体操	23	23	37	33	33	34	17	13	16	16
水泳	30	30	24	31	31	27	33	29	37	28
山岳	6	12	11	11	11	10	10	8	7	6
ラグビー	35	35	20	19	19	28	15	16	15	11
サッカー	55	63	47	31	31	44	41	53	59	65
男子卓球	13	15	9	9	9	12	2	8	12	12
女子卓球	8	11	0	2	2	0	0			
バドミントン	42	36	46	26	26	22	29	32	37	32
バトン	18	18	0	0						
文芸	4	5	5	6	5	6	6	5	3	5
ブラスバンド	56	63	41	27	41	36	33	35	32	43
E・S・S	6	6	6	11	6	8	13	7	6	7
数学研究	4	3	0	7	4	4	3	2	3	4
理科研究	5	5	3	13	3	14	13	3	2	2
書道					8	4	14	3	5	9
美術	23	20	11	15	11	15	5	11	15	18
放送	7	12	12	11	12	15	16	13	9	6
演劇	27	33	36	44	36	26	24	40	33	41
写真	0	5	3	6	3	8	10	13	24	16
茶道	4	24	8	13	8	8	11	5	2	6
漫画研究	16	24	24	12	24	18	15	13	14	11
家庭研究							13	12	7	11
ギターマン	5	8	3	5	3	30	33	21	20	19
ボランティア							20	19	9	7
映画研究	6	6	0	11	10	12	0	6	6	7
社会研究	6	7	0	0						

# 教務部

## 教育課程の改訂・学校週五日制と本校の教育課程の特徴

### 教務部

本校創立40周年以後、この10年間に指導要領の改訂や学校週五日制の完全実施など学校教育をめぐる環境が大きく変化してきました。この大きな変化は、(学校週五日制による)授業日数の減少や(指導要領の改訂による新しい科目「情報」・「総合的な学習の時間」の導入による)既存科目の単位数減少・変更として表面に現れています。本校でも、この変化に対応すべく教科・分掌・委員会で様々な検討をしてきました。ここでは、教務部に関連のある内容をいくつかあげてみたいと思います。そして、今後の課題についてもふれてみたいと思います。

### 1. 本校の教育課程の特徴

#### ①教育課程にかかわって

- ・2学期制の導入(平成14年度より)

平成16年度	前期授業	4月8日より10月6日
	後期授業	10月8日より3月15日

- ・半期認定(前期または後期だけで単位認定)科目の設定(平成16年度より)

平成16年度は、2学年で芸術(1単位)と保健(1単位)で半期認定を実施。

- ・従来50分1～6限の授業を月曜・金曜については、時間を延長して、7限まで実施。(平成14年度より、1・2年生の全員対象)

- ・2学期制による定期考査の日程変更と回数変更

#### ②平成16年度より、2学年で「情報A」(必修、2単位)の実施。

#### ③総合的な学習の時間(3単位)の実施(平成17年度より)

#### ④その他…教務内規の見直し

- ・仮進級制度の導入(平成14年度より)
- ・卒業に必要な単位数の弾力的運用

### 2. 教育課程をめぐる問題点と課題

指導要領の改訂の趣旨として、「21世紀を生きる人材を育てるため、豊かな人間性を育むとともに、一人ひとりの個性を生かしてその能力を十分に伸ばす新しい時代の教育の在り方」が問われているとし、「ゆとりの中で自ら学び自ら考えるなどの〈生きる力〉の育成を基本とし、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底を図る」こととしています。その結果、「総合的な学習の時間」や「完全学校

週五日制」が導入されました。

しかし、学校週五日制と新教育課程のもとで学んできた1・2年生についてみると、「学力の低下」が大きな問題になっており、本校生も例外ではありません。従来、中学校で学んできた内容の一部を高校1年生で教えることになり、また授業日数の減少も大きく影響しています。本校では7限目授業の実施や学校行事の見直しなどで授業日数や授業時間数の確保に努めていますが、それでも以前の生徒より学力が低下していると感じている教員は多いと思われます。

本校では、大多数の生徒が大学・短大などに進学する中で、生徒にいかにつけさせるか、大きな課題となっています。大学受験の仕組みも多岐にわたり、それに対応した教育課程の見直しもさらに必要になると考えられます。ただ、本校では従来から3年次の選択科目(平成16年度からは2年次の選択科目も同様)については、生徒の希望を尊重するため、多様な科目選択のタイプが存在し、クラス分けなどの作業に大きな負担となってきました。この点の見直しも必要になっています。

学校週五日制になって、「土曜日」の生徒の過ごし方はどのようになっているのでしょうか。本校では従来から部活動は、運動部も文化部も活発に活動が行われていますが、それでも全校生徒が参加しているわけではありません。土曜日の過ごし方として、ボランティア活動、塾や予備校、アルバイト、そして何となく一日を過ごしている生徒もいることでしょう。学校側としても部活動以外にもっと土曜日を利用しようという意見もあります。実際、他校では「補習」や「模試」に土曜日を利用しているところもあり、本校でもこの点について議論する必要があります。

平成17年度で、すべての学年で新教育課程の実施となります。教職員も生徒もこの新教育課程のもとで地に足がついたしっかりとした教育や学習に取り組めるようにのぞみたいと思います。

# 進路指導部

## 進路指導部の現状

本校の進路指導は次のような進路目標を掲げ、生徒一人一人の進路実現のため活動しています。

1. 自己を知り、将来の職業について考える
2. 進路実現のために学力の向上を図る
3. 的確な進路情報を提供する

主な活動は次の通りです。

4月	3年	進学説明会（文系、理系）
	3年	就職説明会（公務員、民間）
5月	3年	第1回実力テスト
6月	1年	進路適性検査
	2年	進路説明会
	3年	大学別説明会
8月	3年	第2回実力テスト
9月		指定校推薦校内選考
		大学入試センター試験説明会
11月	2年	進路説明会
2月	1, 2年	実力テスト

進路閲覧室では全国の大学、短大等の資料を揃えています。昼休みや放課後は3年生を中心に閲覧する生徒でにぎわっています。赤本、入試問題集は貸し出しを行っており、入試前にはよく利用しています。インターネットに接続されたコンピューターが2台設置され、進路に関する情報をいつでも検索できます。また、進路資料室では主な大学、短大、専門学校の学校案内や願書、入試問題集を用意し必要なものはいつでも持ち帰ることができるようにしています。

47期生の進路希望調査の結果では95%の生徒が進学を希望しています。そのうち大学77%、短大4%、専門学校14%です。

46期生の進路先は国立大学1%、私立大学46%、短大11%、専門学校15%、就職3%、その他24%となっています。

進路希望調査および進路先の結果はここ数年同じような結果になっています。

現役生では国立大学合格者10名足らずです。センター試験も5教科7科目と科目増となり、できるだけ早く受験に取り組むことが必要となりました。私立大学では30名前後が指定校推薦で進学します。短大進学者は年々

減少しています。そのかわり専門学校の進学者が増加しています。特に看護、医療系の進学者はその約1/3になっています。

就職では公務員合格率が非常に厳しくなっています。数年前までは10名程度合格していましたがここ数年では3,4名合格がやっとというのが現状です。民間就職希望者は例年数名ですが生徒の希望する企業からの求人がほとんどなく希望に応じた求人開拓で対応しています。

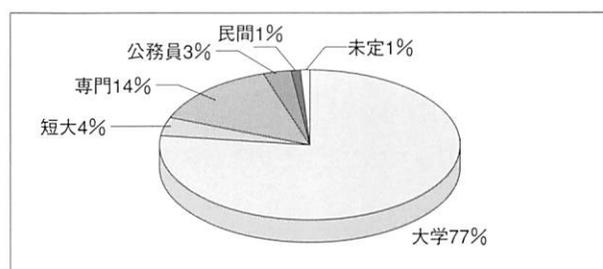
## 今後の課題

自宅での学習時間が少ないのが大きな問題です。1年の調査によりますと2時間以上学習している生徒が全体の5%しかありません。1年のうちから進路意識を高め、目標を持って学習できるような指導を徹底しなければと思います。年間通じて行われている補習の充実や、外部模試も定期的実施し学習の動機付けの一助になればと考えています。

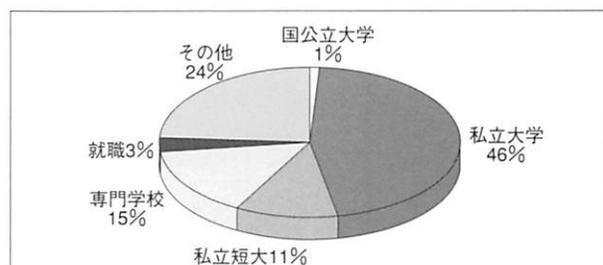
また、大学、短大、専門学校、予備校等から膨大な情報が学校に寄せられます。進路指導部としてはいかに精選してタイムリーに生徒に提供するか重要な課題です。

最後に、進路指導は進路指導部だけでできるものではありません。学年団や各教科と連携を深めながら共通認識をもち、学校全体で一人一人の生徒に対して一層きめ細かな指導をしなければならないと思います。

資料1 進路希望調査結果（47期生）



資料2 進路状況（46期生）



# 生活指導部

## 生活指導の現状と課題 東住吉高校創立50年…

激動する現代の中で、社会の進歩は、我々の生活環境を大きく変化させた。それに伴い、教育の課題・問題点も変わってきている。

ある府立高校では、「意識・実態調査アンケート」の結果から、以下のような点が考察されている。

◇大人（教師）が当たり前と思っていることを、子ども（生徒）は当たり前と思っていない。大人が「悪い」と思うことに対して、「あまり悪くない」「全然悪くない」と回答する生徒が予想以上に多かった。

→「何故いけないのか」から説明する必要性  
注意されると、怒る（キレる）生徒達

◇人に迷惑をかけると考えられるものは「悪い」と考える方が多く、迷惑をかけないと考えるものは「悪くない」と考えている傾向がある。

◇「法律に違反していない」「他人に迷惑をかけていない」という、自己中心的な意識が強い。

◇自己主張と「言い訳」を取り違えている。

その他の調査でも、以下のような結果が出ている。

### 年齢とともに低下する

#### 「絶対にしてはならないこと」への意識調査

絶対に悪いこと	小学生	中学生	高校生
いじめ	63.9%	53.2%	45.7%
さぼる	60.5%	44.8%	18.7%
物を壊す	90.0%	79.7%	60.2%
飲酒	69.1%	46.3%	17.1%
喫煙	88.3%	75.7%	35.2%
家出	63.8%	45.7%	33.7%
万引き	92.6%	87.8%	64.6%
親等への暴力	79.2%	75.9%	66.8%

秦 政春・大阪大学教授 1999.12 日本経済新聞

	日 本		アメリカ		中 国	
	本人の自由	いけない	本人の自由	いけない	本人の自由	いけない
先生に反抗	79.0	21.0	15.8	82.2	18.8	80.3
親に反抗	84.7	15.2	16.1	81.5	14.7	84.4
ずる休み	65.2	34.7	21.5	75.2	9.5	90.1
売春など	25.3	74.5	-	-	2.5	97.1
麻薬・覚醒剤	11.4	88.5	19.6	78.3	1.2	98.4
万引き	10.5	89.3	13.2	85.0	1.8	98.0
金品を盗る	7.3	92.6	6.5	91.6	0.9	98.8

1997.3 日本青少年研究所

明らかに、我々大人の予想から大きくかけ離れた、「高校生の規範意識の低下」が浮き彫りとなってくる。

これらのことを踏まえ、教育に関わる問題点を列挙する。

## 1. 家庭の問題

### ◇親の教育力低下

#### ①家庭における父親不在

母親まかせの子育て → 母親の孤立化

#### ②自由の尊重 → 放任 → 放棄

#### ③叱らない・叱れない親

→ 学校任せの「しつけ」

#### ④過保護

子離れ出来ない親 → 子どもの尻拭い

→ 子どもの言いなり

親離れ出来ない子ども

#### ⑤親の規範意識の欠如

#### ⑥権利意識の強い親

### ◇核家族化・子ども数の減少

社会性の欠如

共働き家庭の増加

親と子どもの接触機会の減少

→物品での充当→愛情不足

### ◇家庭の学校化

## 2. 学校の問題

### ◇教師の指導力低下

- ①無力
- ②指導力不足
- ③高齢化
- ④無気力

### ◇教育条件の悪化

受験競争・輪切り教育

### ◇学校の家庭化

## 3. 地域・社会の問題

### ◇子どもを育てる地域の力不足

怒らない・叱らない大人達  
地域のつながりの稀薄化

### ◇子ども集団での体験不足

年長者への尊敬・憧れ  
年少者・弱い者への思いやり・いたわり  
集団規律の習得

### ◇社会規範・モラルの低下

### ◇大人社会の腐敗

### ◇情報の氾濫

### ◇マスコミの責任

ここに述べたように、わが国は大変な時代に突入してしまっている。この大変な時代に子ども達は甘やかされ、鍛えられることもない。その子ども達が、そのまま、その時代へと放り出される。子ども達にとって、ますます生きにくいことは当然である。

親の過保護・過干渉、加えて過期待が大きな問題点として指摘されている。大事に大事に育てられ、放任され、しかし事柄によっては干渉され、時には大きな期待を背負わされ…

以上の状況から、学校教育、特に生活指導において大切なことは何かを考えてみたい。

## 1. 子ども達にとっての居場所があること。

※子ども達の存在を認めること

ここに、ある小学生の詩がある。

「今日は母の日、金曜日に作った母の日のお母さんへのプレゼント。それを渡すとき、心の中でこう思った。「ほめてくれるかな」と。どきどきしてた。そしたらお母さんが、「もう3年生だから、もっときれいに書きなさい。」と。わたしはがっかりした。」

これでは、この子の居場所はないのである。

## 2. あたかさと優しさの伴った厳しさ

## 3. 規律の重視

## 4. 自律と他律

## 5. 褒めること

## 6. 父母・地域との連携

本校においても、遅刻者数・盗難件数の増加が大きな問題となっている。また、不注意が多分の要因であると考えられるが、登下校時における自転車通学者の車との接触事故も増えている。これらは、先に述べた規範意識の低下・欠如がその原因であると思われる。

さらに、心に悩みを持ち、体調面にも不調をきたす生徒も増えてきており、保健体育部との連携のもと、教育相談の充実が必要となってきている。教員間での認識の不一致、生徒への対応の相違があることも事実である。教員相互の一致した共通理解と、これに伴う指導が必要である。

50周年という大きな節目を迎えた今、進路指導・保健指導とともに大きな柱である生活指導についても、現状を的確に捉え、指導に臨みたいと考えている。

東住吉高校にとって、素晴らしい未来が拓かれることを確信している。

## 保健体育部

時折、雪の散らつく中、恒例の耐寒訓練を終えたばかりだ。本校は、毎年2月の初旬に長居公園でマラソン大会を実施している。校長のピストルの合図で長距離コースを男子3周(10km)女子2周(6km)するのである。1位でゴールをきった女子生徒が強面のクラブ顧問に頭をなでてもらっている。校長先生がタイムキーパーとなり、ゴールで順位を連呼されている。力尽きそうになった生徒を励ます先生方。たった3時間程の行事だが、そこにはドラマがあった。

保健体育部の仕事は、4月当初の1年X線・心臓検診を皮切りに、定期健康診断(資料1)、学校環境の整備、救急法講習会、防災避難訓練……と続いていく。この分掌は、生徒の健康を心身両面からサポートしケアしていく部だと痛感している。

本校は、部活動が盛んで怪我の発生率も高く、保健室を訪れる生徒が多い。(資料2)身体面だけでなく精神面の悩みを抱え来室する生徒も増加している。保健室は「落ち着く」「ほっとできる」「気が休まる」「くつろげる」と気軽に来ている。時には優しく、時には厳しく、養護の先生が対応されている。

近年、不登校、引きこもり等が取りざたされている。府教委の対策としてハートケアサポーター制度、スーパーバイザー制度が展開されている。2001年度は、武庫川女子大の大学院生がハートケアサポーターとして週1回来校し、生徒達の相談に気さくに対応してくれていた。2002・2003年度は、スーパーバイザーとして都甲泰弘先生の週1回の来校があり、指導を仰ぐことができた。早めの適切な対応で不登校等にならずにすんだケースもある。他校では、保健室登校を受け入れ、少しでも学校に来られるよう指導体制をとっておられるということも聞いている。本校は、現状では、教育相談の事例は数多くはないが、1人も学校へ来られない生徒がでないよう指導体制を整えていく必要性を感じている。来年度以降は、スーパーバイザー配置校ではなくなるので、カウンセリングの研鑽を積み、学校独自の活動の活発化が必至となっている。

今年度新たに美化委員会の活動として学校周辺から針

中野駅まで3コースに分けて校外美化活動を2回実施した。11月実施は、大阪市一斉清掃“クリーンおおさか2003”のイベント参加でもあった。空き缶、空き瓶、お菓子の袋…特にタバコのポイ捨てが結構多かった。生徒達もあそこにもここにもと半ばあきれながらも一生懸命に拾っていた。地域の方々から感謝やねぎらいの言葉をいただいた。

昨年度より保健委員会活動として保健委員による生徒向けの「保健だより」を毎月1回発行している。クーラー病、日射病、ダイエット、インフルエンザ等を特集した。また今年度は、大阪府医師会館で保健委員の代表者が保健研究発表大会にも参加した。“ヒガスマ生へ50の質問!”(資料3)と題して5人の生徒が壇上に上がった。9月に文化祭で発表した内容が元になっている。(詳細は後に記載)今後も生徒による活動を活発化させ、健康に対する意識を高めるようにしていきたい。

### 保健体育部の主な活動内容

- ① 保健 新入生心臓検診・X線検診  
定期健康診断・検尿  
事前検診(合宿・強化、修学旅行、登山行事、耐寒訓練)
- ② 環境 清掃区域分担(学期毎)  
美化委員会活動一校外美化活動(2回)  
大清掃・安全点検  
冷暖房管理  
水質・空気・照度検査  
机・カーテン整備
- ③ 行事 防災避難訓練(2回)  
安全対策  
救急法講習会  
耐寒訓練
- ④ 広報 保健委員会活動一保健研究会発表  
保健だより発行
- ⑤ 教育相談 相談活動  
スーパーバイザー活動

⑥ 学校保健委員会

学校医、学校歯科医、学校薬剤師  
管理職、PTA代表との協議  
(今後の生徒の健康管理について)

で食べることが多いですか」「ぐっすり眠れますか」「遅刻をよくしますか」「授業中よく寝ますか」「携帯電話を毎月1万円以上使っていますか」「アルバイトをしていますか」「学校生活は楽しいですか」「東住吉高校生でよかったですか」等の質問を考え集計し考察した。

現状では、東住吉生は、85%以上の生徒が毎日朝食をとり、弁当を持参していることから、ほぼ健康な生活をしていると言える。また82%の生徒が東住吉生でよかったと答えている。アンケートの分析を通じて、特に2年生の女子が遅刻する率が30%と他の学年に比べて高いことがわかった。授業中の居眠りも多く、アルバイトをしている率と関連性がある。かなり学校生活に影響しているようだ。それも3年生になると受験を意識するからアルバイトも減りメール等をやる時間も半減している。

携帯電話の所持率は91%となっている。1年生は男女とも95%の生徒が所持している。また悩みという項目では、女子が多く、特に3年生の女子が80%以上悩みを抱えている。しかし、その悩みは友達や家族に打ち明けられていることもわかった。気軽に話せる友達が多いのも東住吉生の特色である。16%の生徒が喫煙経験があり、74%の生徒が飲酒経験があることもわかった。お酒については91%の親が子供の飲酒を容認している。未成年者がお酒を飲むことに甘い日本人像が浮き彫りにされている。

食習慣の追加アンケートでも概ね健康な食生活をしていると判断できるが健康のために何かをしているかという27%の生徒の実践に留まっている。その内容は、男子は運動、女子は食事となっている。それも、食品の品質にまで目を向けている。さすが東住吉生は偉いと感動している。しかし一部の生徒の中には、3食のうち1食が抜けたり、糖分の取りすぎなど食習慣がおそろかになっている人も見受けられる。その状態が続くとがん、脳卒中、心臓病などの生活習慣病を引き起こす危険性が高くなるので若いうちから食習慣に気をつけなければならないことにも気づかされた。今後も保健委員会活動を通して啓発していきたい。

(資料1) 定期健康診断結果

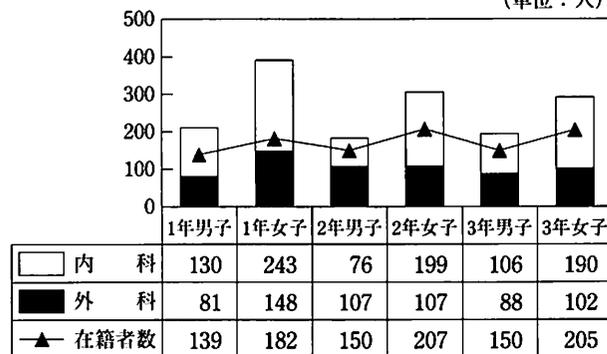
種別	男子			性別 学年	女子		
	1年	2年	3年		1年	2年	3年
	139	150	150	受験者数	182	207	205
身長 cm	168.6	169.3	170.5	本校生平均	158.3	157.7	158.2
	168.7	170.1	170.8	大阪平均	157.7	157.9	158.2
	168.3	169.9	170.7	全校平均	153.7	157.7	157.9
体重 kg	60.0	60.8	62.8	本校生平均	52.2	52.5	52.9
	60.4	61.5	63.0	大阪平均	52.4	53.1	54.1
	60.3	61.9	63.2	全校平均	52.4	53.3	53.5
座高 cm	89.3	90.3	91.1	本校生平均	85.0	85.3	85.0
	90.2	91.1	91.7	大阪平均	85.3	85.3	85.8
	90.0	91.0	91.5	全校平均	85.3	85.4	85.4

\*大阪・全国の数値は2002年度学校保健統計調査速報の結果より抜粋

(資料2)

保健室来室者と在籍者数

(単位：人)



\* (資料1)と(資料2)はいずれも2003年度保健体育部総括より

(資料3) “ヒガシミ生へ50の質問!”

生活実態について50の質問で全校生徒にアンケートをとった。食事、睡眠、部活動、勉強、生活について「毎日朝食を食べますか」「昼食は弁当ですか」「夕食は1人

# 総務部

## 円滑な学校運営をめざして

平成15年度より実施された校務分掌の改革により、従来の図書・視聴覚との統合が図られ、総務部は円滑な学校運営の中心であるとともに情報センターとしての役割を担う分掌として位置づけられることとなった。ともすれば教務・生徒指導・進路といった明確な目標をもつ分掌の仕事に入れきれない内容を担当する「雑用係」という側面もあるが、これなしには円滑な学校運営が成り立たないという分掌でもある。主な役割を総務部の役割分担から挙げると以下の通りとなる。

## 総務部の分担

- ① 総務 入学式、卒業式、始業式、終業式などの儀式関係  
学校説明会、公開授業、同窓会
- ② 図書 図書館の管理全般、生徒図書委員会の指導、図書館報「きぶんでんかん」の発行
- ③ 情報 視聴覚教室の管理、情報ネットワーク全般、学校ホームページの更新、図書館における生徒のインターネット利用指導、生徒名簿の作成
- ④ PTA PTA活動全般

## 総務部の1年間

次に総務部の主な仕事を、1年間の学校生活の中に位置づけて時間をおう形で示すとともに、その現状と課題について述べることにする。

### 1 合格者説明会 3月下旬

入学者選抜も終わり、合格者が発表された日の午後、合格者とその保護者を集めて実務的な説明会を実施している。

### 2 新転任者オリエンテーション 4月1日

新しく本校に着任された新転任の教職員の方々がスムーズに勤務につかれるように、校長から辞令が交付され

るこの日に学校生活全般にわたるオリエンテーションを実施している。

### 3 入学式 4月8日

希望に胸をふくらませて本校に入学してくる新生生にとって思い出深い式となるよう、式次第の決定、式進行表の作成を行って厳粛な式の実現に努めている。尚、この日の午前中には在校生のための始業式を行っている。年度の始めであり、生徒たちが気持ちも新たに学習や諸活動に取り組むための節目の日となるよう努力している。

### 4 PTA総会 6月初旬

新年度のPTA役員体制の確立に努め、第1回のPTA総会を開催する。PTA総会は新年度のPTA予算の決定や保護者の学校への要望を聴く重要な機会となっている。この第1回の総会は比較的多数の保護者が参加されるが、それでも委任状をプラスすることで成立しており、今後PTA活動の活発化とともに保護者のニーズに応えた工夫によって参加者を増やすことが課題となっている。

### 5 公開授業 日程は年度によって変わる。

昨年度（平成15年度）にはじめての試みとして、公開授業を実施した。PTA総会が行われる日に合わせてこの日の5時限目の授業を全クラス公開する形でおこなった。従来、公開授業については「小中学校ならともかく、高校になってまで」という感覚が存在したのは事実で、実際に実施してもどれくらいの保護者が見に来られるか不安があったが、蓋を開けてみると100名を越える保護者の方々が熱心に授業を参観された。特に1年生の保護者が多かったのが注目される。

好評であったので今後も実施されると思われが今年度（平成16年度）については日程的に落ち着いて授業を参観してもらえる秋の第2回PTA総会に合わせて行う予定である。

## 6 同窓会総会 6月下旬

本校の一年一度の同窓会総会は6月の最後の日曜日と定められている。この日、同窓会の施設である緑友会館で会員総会が行われ、会員の親睦をはかるために簡単な飲食をしながら楽しい一日をすごしている。また、幾つかのクラブではOB戦をおこなって旧交を温めている。

## 7 PTA主催 親子大学見学会 7月下旬

昨年度（平成15年度）初めての試みで、PTA主催の親子大学見学会をおこなった。

当日、バス一台に乗って関西大学、同志社大学を訪問し、大学側からの詳細な説明を受けた。大学の説明体制も充実してきており、現役の大学生が構内を案内してくれるシステムが出来上がっている。今後、参加者を増やしていけば更に進路の動機づけとしていい行事になるものと思われる。

## 8 夏休み中の図書館の開館 7・8月

生徒たちの勉学の向上をめざして、夏休み中総務部員の当番制で出来るだけ図書館を開館するように努力している。生徒たちはクーラーの効いた所で、読書、調べもの、宿題など思い思いの勉学に余念なく取り組んでいる。

## 9 オーストラリア語学研修 7月・8月

PTAの取り組みとして、希望者を募って毎年夏休み中にオーストラリアへの語学研修を行っている。ここ数年は参加者の減少から他校との合同という形態で実施している。昨年度（平成15年度）は府立日根野高校と合同で行った。

## 10 普通科説明会 10月上旬

高校受験をひかえている中学生たちに本校のことをよく知ってもらうために、毎年1回実施している。ここ数年、900名を越える中学生が来校し大盛況となっている。カリキュラムや進路状況などについて説明した後、文化祭の3年生コーラス大会で優勝したクラスの合唱や体育祭の応援を再現してもらっている。本校での高校生活の

雰囲気を知ってもらうのに大変有効である。中学生にも好評で、ユニークで自主性に富んだ本校の校風が中学生に浸透し、進路選択にあたっての重要な情報提供の機会となっていると思われる。

## 11 第2回PTA総会 11月中旬

通常年2回のPTA総会を開催しているが、今年はこの総会と合わせて、校長の話も聴くつどいを計画した。

大阪府下で3人目の民間出身の校長として赴任された村田校長先生より、今日の教育問題と子育てについて話を聴く機会を得た。

当時、学区内の河内長野市で若い二人が親を殺傷するという痛ましい事件が全国的な波紋を広げていた時だけに、さまざまな子育ての困難や苦勞が出されて一方通行に終わらない有意義な懇談会となった。今後、保護者のニーズに応じて自由に話し合える場の設定が益々求められてくることと思われる。

## 12 卒業式 2月下旬

高校生活最後の卒業式は大変重要な意義をもつ行事であるといえる。従って、大きなエネルギーを割いてその準備に当たらねばならない。

まず、前年の10月末頃に教職員と3年生との別々の卒業式委員会を発足させる。その間の連絡調整役は勿論、3年担任団と総務部が担当する。式は何と言っても卒業生が主人公であり、彼らの意見を出来るだけ尊重する形で実施しなければならない。本校ではほぼ毎年同様の伝統的なスタイルで、厳肅な中にも感動的な卒業式を行ってきた。その中で「卒証書授与」の時、卒業生全員がひとりひとり壇上に上がって直接校長から卒業証書を受け取る方式に変えた学年（44期卒業式）があったり、在校生が答辞の中で歌を歌ったりする（47期卒業式）といった一定の変化が見られるようになってきた。

卒業式のメインである答辞については、この間長らく生徒の卒業委員会の集団的な討議を経て、芸文科・普通科の枠を超えて数人の代表生徒が読むという形式が定着してきている。3年間の総括とお世話になった担任の先

生を始め諸先生方に対する心温まるメッセージが卒業式を思い出深い、素晴らしい内容にしている。今後とも生徒が主人公の卒業式をつくり出していく努力が求められる。

## 今後の課題

最後に総務部の今後の課題を列挙してこの稿を終わりたい。

### ① 高校改革への対応

現在の高校は大きな改革の波におおわれている。本校においても「2学期制」の導入、中学生向けの芸文科・普通科説明会の実施、公開授業の開催等々、ここ数年のうちに導入されたものが多い。円滑な学校運営をめざす総務部としては、これらのめまぐるしい変化に迅速に対応することが求められている。例えば、「2学期制」が導入された結果、始業式・終業式の持ち方に工夫があるといったことである。学期の区切りが生徒たちの日常生活の区切りとやはずれてしまった中で、どのようにしてメリハリのある学校生活を送らせる前期・後期の体制をつくり出すかということである。

### ② 図書館の運営

本校の図書館も創立以来の年月を重ねるに従って蔵書数も増え、現在約25,000冊となっている。平成14年度でとってみると年間の図書貸し出し数は約2,000冊で、生徒一人あたりの年間貸し出し数は約1.8冊となっていて、ここ数年同様の傾向となっている。

現在の高校生と本とをめぐむ状況から見えてくる問題点としては、活字離れが進行し、読むとしても軽いタッチのヤングアダルト本などが多いということである。また、図書館を訪れる生徒が一部に限られ、よく図書館を利用するものとしらないものとの差が大きくなってきている。さらに、本校独自の問題点であるが、図書館がホームルーム教室とは別棟になっていてどうしても図書館から足が遠のくということがある。逆に図書館が静かに本が読めて、学習できる環境を保障するというメリットは

あるが、他校で教室と隣接している学校で図書館利用が増大しているという結果があることからみると、今後図書館利用について啓蒙を強め、多くの生徒が気軽に利用できる図書館づくりが求められている。この点で図書委員会の生徒たちが中心となって作成している図書館報「きぶんでんかん」は大きな役割を果たしているが、今後一層の充実が求められている。

### ③ 情報教育の充実

現在図書館には生徒が利用できるインターネットのできるコンピューターが5台あり、多くの生徒が利用している。今後こうした設備面の一層の充実をはかるとともに、情報を扱う場合のモラル面での指導を強めてこれからの情報社会を生き抜く資質を育てる教育の充実が一段と求められている。

この点で総務部には情報機器に熟達した部員が必ず必要であるが、学校内の教職員の分掌は単年度が原則となっており、この点が悩みの種となっている。学校のホームページの更新などは社会に対して絶えず情報を発信する役割を担っているだけに、この部門への恒常的な人材の確保が課題となっている。

### ④ PTA活動の活発化

高校のPTA活動は小中学校と異なって通学区域が広大なために一定の困難がつきまとう。しかし、一方では益々地域社会の人間関係が希薄化するなかで、子育てに悩み相談する相手もなく孤立する親が増える現状にあって、学校と保護者の間の緊密な連携を図る必要は増大している。その意味でPTA活動の活発化が一段と求められている。PTA総会の後の学年別懇談会、学級懇談会、個人懇談や公開授業等、教職員と保護者が交流する場を一層充実させて行かねばならない。

# 芸能文化科

〈自己表現力は人間力〉〈生きる力に結びつく学力〉  
〈自国を知ってこそ、真の国際人〉

明治以来の日本の近代学校教育は、素晴らしい成果をあげました。世界に誇れる制度です。しかし完璧ではありません。切り捨ててきたもの、置き忘れてきたものも多くあります。音楽を例に「文化」を考えてみましょう。

芸能文化科では入学生にアンケートを実施しています。その結果によれば、約半数はピアノやエレクトーンを習っています。ところが箏や三味線等の日本の伝統音楽は、一人居るか居ないかです。

はじめに掲げた言葉は、本学科のキャッチコピーの一部です。芸文科は小さな学科ですが、大きな夢を描いています。

## 学科設置の頃

本学科を説明する際に、まず出てくるのは「日本で唯一の学科」という言葉です。学科設置から10年以上が経ち、12期生が入学している現在においても、学科の趣旨や目的を理解してもらうには、一定の説明が必要です。まして、東住吉高校に芸能科(当時の仮称)の設置が決まった12年前(平成4年7月)。本校関係者が抱いた不安はなみだいてのことではありませんでした。

この点について、当時、依頼を受けて府立高校の芸能科目履修を研究していた会の座長、井上宏先生(関西大学名誉教授)は“学科設置十周年記念誌(以下記念誌)”に【…その誕生の時には、全国で初めてと同時に歴史的にも初めての試みでありましただけに、心配と期待が交錯していましたが、……当初「芸能は教育現場になじまない」という批判を受けながらも、方針を断固貫かれた府教育委員会の英断を思い起こさずにはおれません。…】と記しておられます。また初代学科長で後の学校長、故・仲慶謚先生は同誌に「…芸能文化科が設置された目的の一つが「偏差値教育から個性尊重」「高校生としての基本的な学習を行い」「芸能に関する専門科目を学び、調和のとれた健全な人格の育成」であります。この教育目的は、今では当たり前のこととして受け止められますが、当時としては非常に斬新なものでありました。…」と、

両先生とも、本学科の先進性を指摘しておられます。

## 10年間の歩み

詳細は記念誌にまとめてありますので、本誌では概略のみにとどめさせていただきます。

学科対面式(2年生が舞台披露)/学年毎の文楽・歌舞伎鑑賞・舞台機構研修/地域寄席のボランティア/卒業発表会/彦八まつりボランティア/文化祭(2年生は寄席)/年5回以上の学科説明会/能楽鑑賞/箏曲発表会

などが定期的な行事として設定されていますが、宝塚歌劇や劇団四季の鑑賞や、各種催しへの参加など、平均すれば毎月2~3回の取組を実施しております。

## 新たな飛躍をめざして

- ・学科改編=①類別を廃止し、2・3年次に選択授業
- ②演劇科目の授業を開講

平成15年入学の芸能文化科11期生から、年次進行により、専門科目も新カリキュラムを実施しています。一番の変更点は、学科創設以来の①類・②類という類別を廃止したことです。1年次は全員同一科目を学び、2・3年次で実習・座学の一部を、古典・放送芸能・演劇の分野から、選択するようにしています。

## まとめに代えて

近年の芸能文化科の大学合格者数は、普通科と比べても遜色のない数字を残しています。しかし芸文担当教員は、その数字を以て、学科の成果・実績が上がったとは考えておりません。有名大学に多くの卒業生を送りだすのは嬉しいことですが、冒頭の部分でも触れましたように、この学科は遠大な目標を持っております。1期生といってもまだ26・7歳です。「東住吉高校70年誌?」の頃に学科の本当の成果が議論されるような気がするのです。別の見方をすれば、時代の進歩が、やっと芸能文化科を追いかけだしてきたのかも知れません。

最後に再び、記念誌の井上先生の言葉を引かせてもらいます。『誕生後も、一貫して協力を惜しまず、今日まで

育てていただいた内外の諸先生方に深く感謝申し上げる次第です。何度か卒業発表会を見る度に、私は深い感動を受けました。地域の専門家の協力がなければ実現できない学科であるだけに、本学科の成功は、大阪の教育力の誇りとして受けとめたいと思っています。今日の国際化のなかで、若者が、日本の芸能文化を学ぶことによって、自信をつけ、表現力を身に付けていくことは、今日的課題として重要なことであります。』



### クラス全員の力の結晶 — 芸能文化科卒業発表会 —

芸能文化科では学習している科目（創作実習・舞台技術・芸能鑑賞・芸能各論…）を総合する場として“卒業発表会”という行事を設定しています。「科目を総合する？」その意図を説明させていただくと、「テレビであれ舞台であれ目に触れるのは演技者のみであるが、ともに芸能を成立させているスタッフがいる」という事実です。芸文科の発表会の時間は約2時間半。生徒達はその時間の使い方、つまり全体の構成を先ず考えなければなりません。演目が決まれば、演じ手となった生徒は練習。スタッフとなった生徒は音響・照明・舞台装置を整えます。

練習について言えば、本務でお忙しい外部講師の先生に特別練習のご都合をつけていただく必要があります。この日程調整も生徒の勉強です。他の演目との練習場所・時間の割り振りも必要です。自分たちで演出をまとめていかなければならない演目もあります。

スタッフの仕事はどうでしょうか。照明を例にすれば、1台

が500Wや1000Wといった舞台用の器具が100台以上、吊り込まれたり置かれていたりします。それを演目ごとに、1台ずつ調整していくのです。しかしその結果は観客の記憶に残りません。いや、記憶に残るようでは照明が勝ちすぎている証拠です。あくまでも演者を引き立たせる役回りです。音響や舞台装置についても全く同じです。

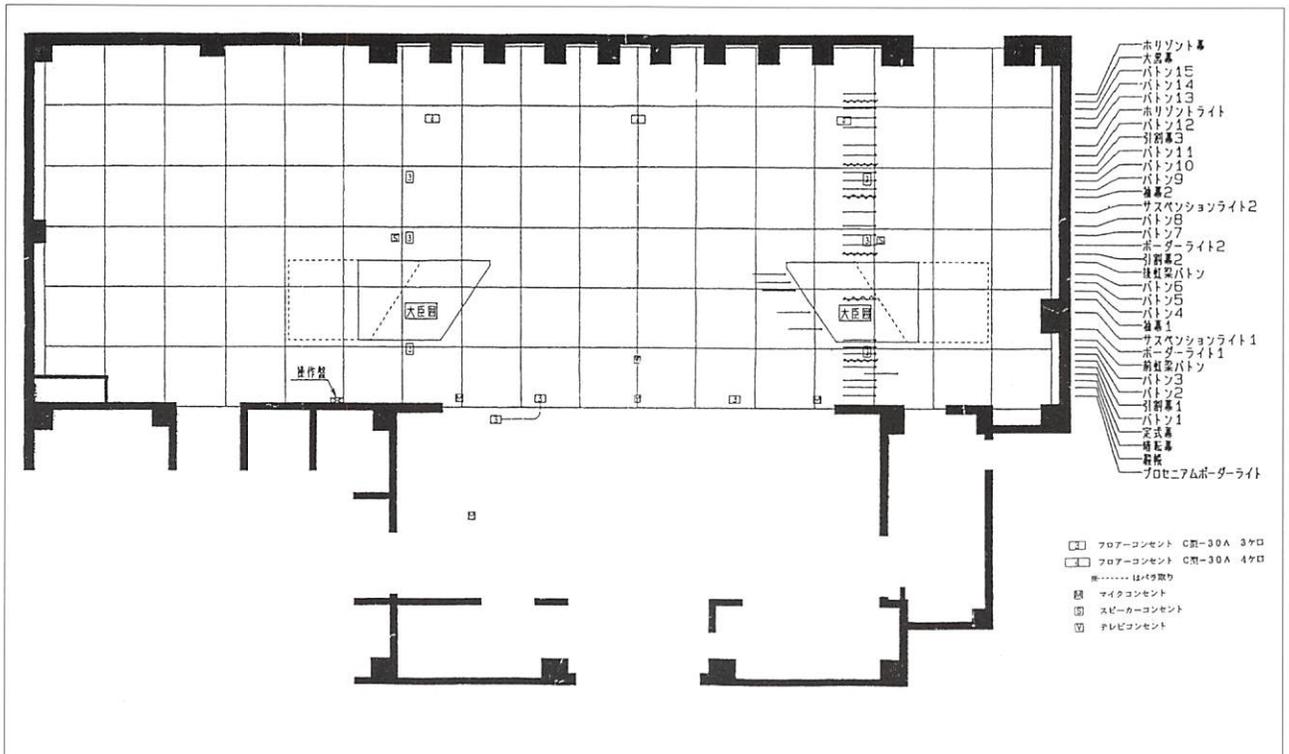
さて演目ですが、「日本舞踊・狂言・仕舞・舞囃子・落語・喜劇・長唄」がメインとなります。これらは芸能文化科のカリキュラム上は「創作実習」という名が付けられている科目です。「創作実習」は芸能文化科専門教科授業時間の約1/3を占めています。（残り2/3は芸能に関する理論的学習です）。

卒業発表会をご覧下さった保護者の皆様、如何でしたでしょうか。生徒諸君の演技・技術力が上手・下手とお感じになられたでしょうか。しかしお分かりいただきたいことは、日本の芸能およびその裏方に大して関心も寄せなかった中学生が、2年間芸能文化科で学んだ成果として、発表会を自分たちの力で創り上げているという点なのです。

H13年 P T A 新聞より

芸能文化科特別非常勤講師一覧

氏名	担当科目	年度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
相羽 秋夫	芸能鑑賞Ⅱ													
青木 繁	芸能鑑賞Ⅰ													
安東 伸元	芸能各論、16～劇表現													
生駒 尚巳	文楽理論													
石橋 秋仁	映像技術													
岩田 重義	舞台美術													
大倉源次郎	創作実習													
河内 厚郎	現代文化論													
菊川 雄士	映像技術													
杵屋勝欣次	創作実習													
阪本 雅信	舞台美術													
笹川 博敏	テレ文、15～舞芸論、7～創作実習													
茂山あきら	創作実習													
柴田 千之	舞台美術													
新野 新	芸能各論、16～芸能文化総論													
高木 道明	文楽仕組													
高橋 嘉市	文楽仕組													
田中 温子	創作実習													
田中 英夫	映像技術													
田原 敏孝	各論、14～16現文化、16～劇表現													
鳥羽 健治	文楽仕組													
冨田 修好	文楽仕組													
中桜津栄普	創作実習													
西澤 郁司	舞台美術													
野村 武士	映像技術													
林家 染丸	創作実習													
藤井 康雄	芸能鑑賞Ⅰ													
藤間 豊宏	創作実習													
古川嘉一郎	芸能各論													
古谷 忠弘	文楽理論													
本多 正則	創作実習													
前田 義信	映像技術													
町田孝三郎	芸能鑑賞Ⅱ													
松尾 宰	文楽仕組													
丸岡安弥乃	創作実習													
水口 一夫	芸能各論													
村上 健治	芸能各論、13芸能文化総論													
室屋 武	文楽仕組													
八木 延佳	現文化、14～16文学、16～劇表現													
山路 洋平	比較芸能論、15～舞台芸術論													
山本 正人	創作実習													
和田 貢	映像技術													



舞台平面図



卒業発表会



舞台調整室



舞台袖と綱元

## 職員紹介



2004年（平成16年）



1955年（昭和30年）

# クラブ活動

## 陸上競技部

学校創立50年と共に陸上競技部も50回目の春を迎えました。今年も新たな新入部員を加え、50名の大所帯で活動を開始しました。思えば先人より、創立当初の数々の戦績をお聞きし、感銘しきり、少しでも大先輩に近づくべく、日々練習に取り組もうと決意したことを思い起こします。しかしながら、近年、強豪私立高校の台頭が著しく、公立高校のついている隙が狭くなっているのが厳しい現状です。それでも我が部としては、ここ10年の間に近畿大会以上が9種目、秋季地区大会女子総合優勝、男子準優勝、高校駅伝10年連続中央大会進出などの成果を残しました。また、高校生の本分である勉強も疎かにすることなく、文武両道の精神で活動をしています。結果、今春の卒業生を見てみると、大阪大学はじめ国立3名合格、関関同立4名合格、他四年制大学、公務員と実績を残しています。さて、今年もシーズン開幕したばかりです。諸先輩方に負けないように、日々練習に取り組む覚悟です。これからも応援を宜しく願います。



## 男子バレーボール部

男子バレー部は今、部員数が48期生5名、49期生2名、50期生5名、マネージャー4名の計16名で活動しています。

昨年の“春の高校バレー予選”において府でベスト8残りました。教えてくれるコーチや専門の指導者がいない中、自分達独自で練習の方法を考え、お互いに教え合い、時には話し合いで何度もぶつかりながらチームを築いてきました。そしてそのチームでこのような結果を残せたということは、僕たちにとってとても大きなものとなりました。これは東住吉高校を卒業してからよい思い出として心に残っていくものだと思います。これからも後輩にこのような自主の精神を受け継いでいってほしいと思います。



## 女子バレーボール部

私達は現在、3年生4人、2年生9人（内マネージャー2人）、そして今年新入部員として入ってきた1年生9人の、合計22人で日々頑張っています。4月になって、それまでずっと監督して下さっていた先生がいなくなり、自分たちの力だけでやっていかないといけなくなりました。その日その日の練習メニューを決めたり、試合を組んだり、力不足ながら頑張っています。この春の部別で、2部に落ちてしまいましたが、次の秋の部別で1部に昇格できるように、そして他校に転勤してしまった監督の先生にお会いした時褒めてもらえるように一生懸命練習しています。笑顔を絶やさず仲良く元気に、そしてバレーを楽しむ心を忘れないで、つらいことがあっても皆で乗り越えていきたいと思います。絶対1部に昇格するぞー！！



## 男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は現在28名の部員が在籍しています。チームでは朝礼を行い、先生が話をするだけでなく、自分たちもスピーチをしたりします。

このチームの平均身長は170cmにも満たない、とても小さなチームです。しかし厳しい練習をこなし、一人一人が早朝や昼休みに自主練を行い、自己の向上に努めています。その成果が実り、昨年の夏は11年ぶりに中央大会に進出しました。でも自分たちはこれで満足したわけではありません。中央大会で一つでも多く勝ち進み、ベスト16、ベスト8と高い目標を達成するために、部員、マネージャー、そして監督の先生が一体となって、日々の厳しい練習をこなしています。

公式戦は年に3回、1月、4月、7月にあります。東住吉高校が会場になることが多いので、もし時間がありましたら是非見に来て下さい。



## 女子バスケットボール部

現在、マネージャーを含めて、1年生（50期生）12名、2年生（49期生）12名、3年生（48期生）7名、計31名で活動しています。

近年あまり芳しい戦績は残せていませんが、「日々努力」をモットーに、部員一丸と なって厳しい練習に取り組んでいます。バスケットボールを更に理解し、バスケットボールを更に好きになる、この事を念頭に置き、背伸びせず、一步一步着実に歩んでいきたいと思っています。「感動は自ら掴み取るもの！」頑張ります！！



## 男子ソフトテニス部

数年前、部員1名という廃部寸前であった男子ソフトテニス部は46期生からは部員も増え、加えて近畿大会出場という好成績も残しています。その後も47、48期生と次第に部員も増え、マネージャーも入るなど部活動らしくなってきたと思います。しかし、部員数と成績は比例せず、47期生を最後に府大会ベスト16以上の成績は残せていません。そこで今年からは近くに住む現役の方にコーチとしてきてもらい、一層活気に満ちた練習に励んでいます。東住吉高校50周年を迎え、これから新しい男子ソフトテニス部を築いていきたいと思っています。数年後には、近畿大会常連校となれるよう高い目標を持って頑張っていきたいと思っています。



## 女子ソフトテニス部

女子テニス部は、現在1、2年生の20名余で活動しています。練習は自分たちでメニューを考えて、先輩が丁寧に後輩を指導し、仲のよいクラブです。

昨年は男子テニス部と合同で、鳥取県大山の麓で合宿をしました。天候にも恵まれ、自然がいっぱいの中で、コートも3面も使って、みんなのびのびと思い切り練習できました。今年からは週1回程度でコーチの方が来て指導して下さるので、その分練習の内容も充実してくると期待しています。みんな練習熱心で、力を合わせ一人一人が上達できるよう日々努力を重ねています。努力して頑張った分、試合での結果につながっていくので、大変やりがいがあると思います。これからも、仲がよくて、けじめのあるクラブにしていきたいと思っています。



## 柔道部

現在、私たちは、男女合わせて19名の部員で日々練習に励んでいます。我が部の誇れるところは、たくさんのOBの方々の存在です。週末にはOBの方々と共に練習をしています。OBの方は、練習のことはもちろんですが、進学や就職についていろいろな相談にのってくれます。学業の面でも優秀な成績で卒業された先輩もおられますし、さらには大阪府の強化選手に選ばれるほどの実力を持った先輩もいました。現在は惜しくも強化選手には選ばれなかったものの、高い実力を持った選手がたくさんいます。年度初めの大阪府の錬成大会でも、好成績を残し、夏の大会に向け大きな自信を持ちました。日々の努力の成果からか、近年は大会でも上位入賞をするようになり、東住吉高校柔道部のレベルが上がってきたのではないかと考えています。我が部は、「文武両道」をモットーに日々の精進を重ね、さらなる高みへ昇っていきます。



## 剣道部

剣道部の練習は、月・火・木には小競技場で通常の稽古を、水・金は筋力トレーニングを中心に、皆がんばっています。部の雰囲気はとてもよく、厳しい稽古の後には、和やかな空気があり、メリハリのついた時間を過ごしています。年間の大きな試合として、まず5月初旬にある第7学区立高等学校剣道錬成大会、そして6月の公式戦、8月の大阪府大会、最後に11月の公式戦と4つの大会があります。平成15年度は5月の7学区の大会において、女子団体戦3位、男子個人戦では優勝を果たしました。また11月の公式戦においても、ブロック予選で男子団体がコート決勝まで勝ち残るなど、着実に力を伸ばしています。平成16年度も5月の7学区の大会で、男子個人戦3位、女子個人戦では優勝を飾り、幸先のいいスタートを切っています。

剣道を通じて心身を錬磨し、旺盛な気力を養い、社会のために役立つ人間へと成長できるよう日々精進しています。



## 体操部

OB・OGのみなさん、体操部は限られた時間とさまざまな条件の中、日々自分の課題の克服に向けてがんばっています。課題は体操の技術だけでなく高校生としての生活、学習や人間関係などさまざまにあり、『うまい選手、強い選手』である前に『立派な生徒であれ。』を基本にして生徒とともにがんばっています。

また、実際の技術習得ではOB・OGのみなさんもよくご存知のとおり、体操競技はいろいろな器具上で、日常生活からかけ離れた動きにチャレンジし、その動きをひとつひとつつなぎ合わせて演技にするスポーツです。そのわずかに数10秒ほどの演技に必要な様々な課題を克服するのですが、なかなかうまくいきません。高校から体操を始めた生徒がほとんどで、体格もしっかりしていて補助も難しいのが現状です。しかし、男女とも2部ではありながら団体総合での入賞を目標にがんばっています。お時間がありましたらぜひ、東住吉高校の体育館に後輩たちのがんばっている姿を見に来て下さい。そして、OB・OGのみなさんも高校時代の体操の思い出を懐かしんで下さい。



## 水泳部

我が水泳部は夏の水泳はもちろん、オフシーズンも部員全員で真剣に活動に取り組んでいます。この水泳部の一番の特徴は部員一人一人の“やる気”の高さです。それは練習の様子を見てもらえば、すぐに分かると思います。活動内容としては、夏は本校のプールで一日平均で約5000mほどの練習を行っています。夏には4、5回ほどの大会にも出場し、そこで優秀な成績を残せる選手も多数います。部員全員、少しでも良い記録を残そうと頑張っています。冬には筋肉トレーニングやマラソンなどの基礎体力の強化を中心に活動しています。そして、また次の夏を迎えるのです。部員の仲がすごく良いところもこのクラブの自慢です。まだまだ若いクラブではありますが、やり甲斐のあるクラブを目指しています。



## 山岳部

新人登山を皮切りに、北アの夏合宿にむけ春は近畿山系で歩荷訓練、秋期は六甲縦走など長距離行で温泉も満喫、冬は戸隠山系でクロカンを取り入れた雪上訓練と、大学並の苛酷な活動に例年取り組んできた。「山はめっちゃ楽しい！」なんて言う部員はひとりもない。目の前の頂上に何度もだまされ、仲々辿りつかない頂上に業を煮やし、凍える手で珈琲を吸いながら「何が悲しくて山岳部なんかに入ったんやろ」が口癖だ。だが、ひと度寝食苦楽と3000m的非日常を仲間と共有した部員たちは、性懲りもなくさらなる頂を求める。仲々真の姿をあらわさない山頂のように、「しんどさ」の向こうに本当の「喜び」が隠れていることを体で悟った部員たちは、精神的にも、体力的にもタフになって卒業していく。



## ラグビー部

少子化の中でラグビー部は15名の選手確保に苦勞しています。東住吉のラグビー部は永らく指導者不在もあって停滞してきましたが、一昨年より本校PTA会長の橋本道雄氏をコーチに招いてみちがえるほど活発で、しかも強くなってきました。04年4月の大阪府下における10人制大会では、惜しくも決勝戦への進出はなりませんでしたが、決勝リーグで健闘し宿敵天王寺高校などを破って32校中堂々の3位となりました。次の目標は9月に予定されている15人制大会のトーナメントでできるところまで勝ち上がり、来年の冬と春の10人制大会では必ず優勝したいと思っています。昨年度から夏のクラブ合宿も再開し、今年は人工芝と行き届いた施設のある大阪体育大学（熊取）のグラウンドでやる予定です。本校OBの長崎さん（大阪体育大学のラグビー部専任コーチ）の尽力によるものです。ラグビー部は前田さんを始めとする強力なOB会の強いバックアップを頂いて元気に頑張っています。部員、マネージャーとも大変仲良く、のびのびと日頃の練習に励んでいます。多数の新入部員を確保してさらに頑張りたいと思います。



## サッカー部

部員数、2年9名、1年15名。マネージャー2名。前大会の成績、5回戦敗退、大阪府ベスト32。現在は、冬の新人戦で前大会の成績を上回るために、練習しています。現在のトレーニングは、個人の技術面、フィジカル面の向上を目的としています。この時期のフィジカルトレーニングはハードではあるが、「あきらめない。妥協しない。言い訳しない。」の精神を元がんばっています。チームの最終目標は、「試合に勝つこと。」です。一週間の活動は約6日ほどで、土・日に試合がよく入り、月曜日が休みになることが多いです。



## 男子卓球部

ここ数年は、部員数が非常に少なく（2名程度）公式戦でも、ダブルスを組むのがやっとで、少なくとも3名以上は必要な団体戦は出場もかなわなかったが、今年度は1年生が多数入部し、現在は1年生が8名、2年生2名とかってないくらいの大世帯となった。ただ、成績は、いまだ一步をいったところで、個人戦を予選3回戦までが最高で、団体戦になると、一回戦を乗り越えるのがやっとといった力量である。週5日制となってからは、水・金の2日しか本格練習ができず（小競技場を、剣道部と交代で使用）、金曜日は7限目終了後の約1時間程度しかないので、急な実力アップは不可能だが、他の日に、基礎トレーニングを導入しはじめたので、徐々に力をつけていけるものと思っている。



## バドミントン部

私達バドミントン部は現在2年生5人、1年生12人で楽しく仲良くにぎやかに、月・木曜日は体育館でラケットとシャトルを使って、火・水・金はグラウンドで筋トレや素振りなど基礎体力を作るために毎日頑張っています。他の運動部よりも楽に見られがちですが（笑）、第7学区大会でダブルス3位など実績もあります。また、今年度の春季大会の団体戦では初めて3回戦まですすみました。ただし、これはほとんど3年生の先輩の実績なので、私達も負けないように練習して、今までの良きバドミントン部を引き継いでいきたいと思っています。



## 文芸部

文芸部は現在、3年生3名、2年生2名、計5名で活動しています。今年卒業された先輩方が作られた、まだ新しい部活ですが少しずつ発行を重ね、昨年は3冊の冊子を発行しました。もともと文章を書くことが好きだが発表する場がなかった人も、高校に入って初めて文章を書く人も、製本作業という慣れない仕事を経て一冊の本に仕上げていきます。先輩後輩という上下関係もなく部員全員でタイトルやテーマについての意見を出し合い、話し合いを進めています。

文章はそれぞれがテーマに沿って詩や小説を書き、学校で編集しますが、もちろんテーマに沿ったものだけでなく、自分が考えたものや自分の気持ちなどもよく書かれます。学生という立場から自分の意見を発表する場として、またその方法としてこれからも文芸部は日々精進していきたいと思っています。



## 吹奏楽部

吹奏楽部は2年前から急激に部員数が増加し、現在60数名のクラブとなっています。

楽器なども足りなくなり、吹奏楽部が廃部となった高校や部員の出身中学のご厚意で、多くの楽器を借りながらの活動をしてきました。今年は50周年記念事業の一環として、約200万円相当の楽器の寄贈をいただき、部員一同なお一層の練習に励んでいます。この4月リック羽曳野で開催した定期演奏会では、R.コルサコフ作曲の交響組曲「シェヘラザード」を自主編曲で演奏しました。また現在は8月にある大阪府吹奏楽コンクールに向けての練習に取り組んでいます。さらに10月の50周年記念式典でのOBとの合同のステージの計画を進めるなど、これからも学校行事に積極的に加わり、できるだけ多くの人に演奏を聴いていただけるような活動をしてゆきたいと考えています。



## ESS部

ESSでは、「楽しく英語を学びましょう」をモットーに、多種多様な活動を展開中です。(例：顧問の先生による、要点を押さえたとてもわかりやすい文法講義。ALTの先生との英会話レッスン～もちろん日本語は一切なし～。米国や英国の実際のニュースを用いてのリスニング訓練。)

他にも映画を観たり、小説を読んだり、洋楽の歌詞翻訳にもチャレンジしています。欧米の行事に合わせ、ハロウィーンやクリスマス、イースターなどはパーティーを開いて大いに盛り上がります。

英語、国際人などの言葉が多く聞かれる昨今の社会を、しっかりとした足取りで歩いていけるような自信を、ESSで培っていききたいと思います。



## 数学研究部

数学研究部は、数学の問題等を解いているのではなく、パソコンやその他の個人の好きな事をしているクラブです。数学研究部という名前のイメージが重いのか部員が少なく、3年生が2人、2年生が2人の計4人で活動しています。

活動すると言っても、部室にあるパソコンは古いので、家からノート型パソコンを持って来て、ホームページやカレンダーを作ったり、おかしな地図を作ったり、ゲームをしったりしています。今年の文化祭では、インターネット占いを行って好評でした。

数学研究部は、部員の一人一人が、やりたいと思う事は、多少の限度はありますが、可能な限り自由に行える楽しいクラブです。少しでも興味を持たれた方は、一度活動を見に来て下さい。お待ちしております。



## 理科研究部

理科研究部は、部員が一人という危機的状態で、今進部員を募集しているという状況です。活動内容としては、第47回日本学生科学賞ソリューション部門で、生徒全員に食事内容に関するアンケートを実施し、どのようにすれば栄養改善できるか研究し最終審査進出を果たし、お台場の科学未来館で発表、入選1等と言う結果を残すことが出来ました。また、このことで読売新聞社から取材を受け、新聞にも掲載されました。さらに、大阪府高等学校生物研究発表会などで活動内容を報告したり、高校生の諸活動を応援する日本青少年研究所主催のいきいき活動奨励賞では平成14年に理科研究部の活動のことを書き、特別優秀活動賞を受賞しました。このように、部員は少ないですけど、日々頑張って活動しています。



## 書道部

「あぁ～来た？」と言う顧問の先生の声で始まる我らが書道部は、部員が少ないからか活動日時、活動内容共に、自由である。

しかし、入学式のお祝いの言葉を一年生に贈ることや正月の書き初めは毎年の恒例になっている。今回のお祝いの言葉は、部員2人で作って少し大変だったが、2人で作った初めての作品ということもあり、楽しかった。

今は、ボランティア部と美術部と共同で「アンネのバラ」についての活動を行っている。そこで考えた事のいくつかを記してみたい。

『世界は今、平和ですか?』『人々は自由に生きていますか?』。字は、人に物事をわかりやすく伝えるもの。心の中の言葉、口には出せない言葉を伝える力が字にはあるのである。



## 美術部

現在、美術部は2年生が1人と1年生が9人で活動しています。部員は皆仲良くにぎやかなときもありますが、クラブが始まると静かになり、真面目に頑張っています。活動曜日は、火曜日と水曜日の週2回だけです。夏休みなどの長期休暇の前の短縮期間になるとほぼ毎日活動します。一年を通しての活動は、春には校外に写生などに出掛けたりもし、夏には高校展に向けて作品を作成し、秋は文化祭で展示する作品を部員が協力して作ります。今年はチョークによる巨大地図画を描きました。しかしながら雨が降ったため満足のいくように作成出来ず、少し残念な気もしました。天気が良ければもっと良い作品が出来ていたかもしれません。今は2月のブロック展に向けて、各自デザイン画や油絵、彫刻などを頑張っています。



## 放送部

構造改革の波は放送部にも及びました。恐らく学校と同じ年齢であろうこの部は大きく、良くも悪くも今年から新たな道を歩みはじめました。まず例年どおりに行われているお昼の放送では、各々の好む曲調を傾向別に分け、独立した日替わり番組として放送しています。もちろん厳しくジャンル分けをしているわけではありません。そして、学校行事に伴う活動は、スピーカーやマイク等の設置から始まり、BGMや体育祭の進行アナウンスを担当したり等々。フットワーク軽く、自分たちがこうしたいと思うことを取り入れたりして自由に伸び伸びとクラブ活動をしています。私たちが持っている原動力は、恐らく全員一致で「放送部の枠に囚われない」だと思います。本当の意味で、生徒のやる気一つでどうにでもなれる可能性無限大、のクラブだと思います。そんなわが部は放送部です。



## 演劇部

私達演劇部は、クラブ紹介のための新入生歓迎会、新入部員を中心とした新人公演、文化祭の公演、そして地区大会（コンクール）と年4回の公演を行っています。脚本から演出まで、部員みんなで話し合いながら、ほとんど全て生徒の力で制作・運営しているのが私達の誇りです。また、毎年地区大会の会場にもなる芸能文化実習棟を主な活動の場所として使わせてもらっていますが、ここにはプロが使う劇場さながらの音響、照明、装置の設備が備わっており、非常に恵まれた環境にあります。もちろん使いこなすのは大変ですが、制作途上でどんな苦労があっても、この舞台上で本番を迎えると、言葉では言えない感動を覚え、それがまた次の公演にむけての活力になります。



## 写真部

現在、部員は17名です。月2回を基本に撮影会と月例会を行っており、暗室も使用できます。撮影は校外外で個々に行きます。近いところでは長居公園や駒川商店街などがあります。

月例会では、自分達の作品を無記名で投票し講評し合っています。そして、それを教訓にさらに満足のできる作品作りに励んでいます。

写真は国語研究室前に飾ってあり、ここ2、3年は部員が芸術文化祭写真部門等で賞を取る数も増えています。

写真部では個々の活動が主ですが、一人一人の写真に対する思い入れが強く、一見バラバラに見える写真部は本当は堅い結束で結ばれています。

50周年の東住吉を祝して、これからさらに自分の満足できる写真を撮れるように精進していきます。



## 茶道部

茶道部は、前顧問の松井先生（国語科）のご指導のもと、地味ながら「お茶」の好きな人たちが週2回、南館2F作法室に集まって、和やかにこつこつと活動を続けてきました。一年生の五月に入部して、3年生の文化祭終了まで、お辞儀の仕方・襖の開け閉めの仕方からスタートして、風炉（夏期）・炬（冬期）それぞれの棚点前がだいたい一人で行えるようにしてきました。運動部のような華やか業績は活動の性格上ありませんが、定例の対外的なものとしては、7月末の裏千家大阪西支部の学校茶道の「私たちの茶会」への参加と、文化祭でのお茶席開設です。「お茶が好き、和菓子が好き、新しいお点前を覚えるのが楽しい」といって、この茶道部を巣立っていった先輩の中には進学後も続けている人がいます。好きでないと長続きはしませんが、興味のある人はのぞいてみて下さい。



## 漫画研究部

漫画研究部は、年4回、不定期に部誌を作って発行しています。特に、文化祭の時には、来客者にも部誌を配ったり、ボードに絵を描いて貼ったりして、いつもより忙しい日々を送ります。一言で言うのなら、学年の垣根を越えて、共通の話題で盛り上げられる、アットホームで楽しいクラブです。現在、部員は3年生が13人、2年生が3人、そしてつい最近1年生が1人入って、計17人となりました。まだまだ新入部員募集中です。部誌を発行する時以外は、正直に言えば、活動は少ないですが、部誌を通じて、他学年の方々の作品を見ることが出来、貴重な事だと思えます。いい刺激になるはずですよ。大会等、向かっていくものはほとんどありませんが、その分、マイペースを保ってのびのびと活動しています。



## 家庭科部

家庭科部は毎週水曜日、調理実習室でお菓子を作っています。部員は現在2人という少人数なので、何を作るかなど自分たちで決め、自由な雰囲気楽しく活動しています。顧問の先生方も話やすく、技術面の指導もあり和気あいあいと行っています。

今年の文化祭ではチャイナドレスを着て、バターケーキとクッキーの販売をしました。両方とも大好評で、すぐ完売してしまいました。現在はお菓子作りを中心にしていますが、他にも手芸などにも挑戦してみようと思っています。

最初は何となく入部した家庭科部でしたが、今は2人で力を合わせて、楽しみながらも、もっと楽しい部になれるように2人で頑張っていきたいと思っています。



## ギター・マンドリンクラブ

部員は少なく、ここ数年は寂しい限りですが、細々と大好きなギターを弾きながら活動しています。大きなイベントはやはり文化祭でのライブです。芝生のベンチでゆったりと聴いてくれるお客さんを前に石舞台の上はぼく達の世界。お客さんが手拍子で乗ってくると最高にうれしいです。今年は、新入生にアピールしようと、合格発表の日も、石舞台のライブをしました。これからも練習を重ねてレパトリーをふやし、大好きな音楽を楽しみたいです。また、聴いてくれる人たちが喜んでくれるような演奏をしていきたいです。



## ボランティア部

平野区社会協議会で月2回開催されている「おもちゃ図書館」では、地域の子供達と身体ごとぶつかり合っています。継続的に活動することで、子供達だけでなく、お母さん方や他のボランティアさんとも親しくなり、和気あいあいとした雰囲気を持つ事ができるようになりました。

近隣にある児童養護施設には、月1回訪問し、子供達と遊んだり、清掃活動なども行っています。

長期休暇中には、特別養護老人ホームの納涼祭等の行事に参加しています。また、日本野鳥の会大阪支部の蔵書整理を委託されており、校外での活動は多岐に及びます。

校内では使用済み切手や書き損じ葉書き等の収集をしたり、校庭で花を育てています。この春は平和の象徴としてアンネの薔薇の苗を頂く事ができ、花壇の中心に植えました。



## 日本音楽同好会

日本音楽同好会（箏・三味線）は日本の伝統楽器である箏と三味線（地歌）を演奏する同好会です。まだ同好会ですが、毎年2月に開催される大阪府高等学校芸術文化連盟 芸術文化祭の日本音楽部門の演奏会に参加しています。本校は芸術文化科があることもあって、演奏曲に出す曲も他校ではあまり演奏されない、歌を伴う古典曲を主に演奏してきました。その姿勢は講評の先生からも高く評価されており、部員をもっと増やして近畿大会や全国大会をめざしてくださいと励まされています。

写真 場所 ワッハ上方 2004年2月8日 中村双葉作曲 「春の栄」



## ダンス同好会

ダンス同好会は、普段は週1回～2回練習をしています。夏休み前からは、文化祭での舞台に向けて、週3回～4回の練習を行います。文化祭での舞台は、ジャンルごとにグループに分かれ、また複数の曲を用いて、構成します。

舞台前の練習は、覚えることや、できるようにならねばならないことがたくさんあり、体力的にも精神的にも大変ですが、その分、舞台を終えた後には素晴らしい達成感を味わえます。

昨年は新入部員が入らず、現在は3年生が4人という状況です。しかし今年は、新1年生から入部希望者が続々と出てきているため、部に昇格できるよう活動を続けていこうと頑張っています。

